

平成 1 8 年度公立高等学校

みやぎ学力状況調査

分析結果報告書

結果の概要

国 語 P. 1
(調査対象人数：15,530名)

数 学 P. 6
(調査対象人数：15,390名)

英 語 P.16
(調査対象人数：15,276名)

質問紙調査 P.32
(調査対象人数：15,650名)

平成 1 8 年 1 0 月 2 3 日 ~ 2 7 日実施

宮 城 県 教 育 委 員 会

「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

新学習指導要領の実施に伴い、生徒の国語の学力状況を調査・分析し、本県の今後の各学校における学習指導の改善に資するのがこの調査の目的である。従って出題内容も新学習指導要領に沿った高校1年生前半までの基礎的・基本的な内容であり、一部中学校の内容を含んだ問題となっている。

実際の生活の場面では、「聞く」「話す」「読む」「書く」という国語の能力が複雑に組み合わされて用いられているが、その表現に不可欠な「関心・意欲・態度」を質問紙調査によって調査した。また、数値的に測定可能な「理解力」、「読解力」、「思考力」、「判断力」、そして一部「表現力」、「応用力」、またその基盤となる領域としての「国語の知識」の基礎的・基本的な学力をペーパーテスト調査によって調査した。

2 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

□ 漢字・語句

問1は「漢字」の読み書き。(1)～(3)は当てはまる漢字を書く問題,(4),(5)は読みを書く問題。問2は「慣用句」の正しい使い方,問3は「敬語」の正しい用法,問4は「ない」の識別の問題である。問5と問6は「文節」や「主述」の関係の理解など文の基本的構造を理解しているかをみる問題である。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
問1	(1)	ア	23.3	75.8	0.9	21.9	12.0		41.9
	(2)	イ	84.4	15.0	0.7	6.6		7.9	0.5
	(3)	ウ	91.9	7.3	0.8	0.3	0.6	6.4	
	(4)	エ	66.8	32.2	1.0	19.5	7.7		5.0
	(5)	オ	63.3	35.9	0.8		0.7	23.1	12.1
問2	カ		14.5	84.5	0.9	14.9		46.3	23.4
問3	キ		62.4	36.8	0.8		10.8	16.7	9.3
問4	ク		59.3	40.0	0.7	4.6		12.9	22.5
問5	ケ		72.9	26.6	0.5	12.2		10.9	3.5
問6	コ		75.0	24.5	0.5	9.0	6.4		9.1

【考察】

問1(1)「勝利をオサ(収)めた」の「オサめる」を正しく「収」と回答した者の割合がわずかに23.3%であったのに対し、学問・技芸を学んで身に付ける意を表す「修」を選択した者が41.9%という結果となった。また、「渋滞」はよく使われる熟語であるが、「滞」の訓読みを問うた(4)「車の流れが滞(とどこお)る」の正答率は66.8%にとどまった。(5)の解答として「しんい」を選んだ者が多かったのは、文意から連想したためだと思われる。漢字については、文脈に即し意味や用法を考えながら漢字を適切に使い分けること、音と訓とを関連付けながら読み方を理解すること等が必要である。

問2慣用句に関する問題の正答率が14.5%と極めて低かった。これは全問題中で最も低い正答率である。昨年度出題の「水を向ける(正答率38.7%)」に比べて日常目にする機会の少な

い慣用句であり正答率が下がることは事前に予想されたが、思った以上に下落幅が大きかった。問3の敬語表現に関する問題では、誤答 を選択した者が多かった。「お～する」(謙譲)と「お～なる」(尊敬)の使い分けに注意する必要がある。問4「ない」の識別の正答率は60%に満たなかった。似通った働きでも品詞は異なる場合があるので、注意したい。問5については、正答率が昨年より若干低下した。文節を正しく理解することは、問6の文の構造の正しい把握、ひいては文章の正しい読解につながるものなので、確実に押さえておきたいところである。

㊦ 現代文 評論

問1, 問2, 問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解しているか、問4は本文の論旨の展開を正しく理解しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
問1	サ		82.5	16.8	0.8	7.9		5.8	3.1
問2	シ		75.8	22.6	1.6	7.2	5.1		10.2
問3	ス		51.4	46.9	1.7	24.8	11.8	10.4	
問4	セ		41.3	56.9	1.8		20.7	18.6	17.6

【考察】

問1, 問2は、どちらも傍線部前後の内容から解答が導き出せる問題であり、正答率が高かった。しかし、問3, 問4については正答率が低かった。問3の誤答では が多かったが、選択肢の「敏感に反応して修正を迫る」という表現が本文中にもあったことから短絡したものと考えられる。また、問4は文章全体の論理構成に関わる問題であったため正答率が低くなったと思われ、誤答率も20%程度で分散した。文章全体の展開を確かめながら読み進め、本文の内容と選択肢を丁寧に照らし合わせて正誤の確認をする必要がある。

㊦ 現代文 小説

問1は登場人物の心理の説明、問2, 問3は登場人物の心情理解を問う問題。問4は登場人物の人物像を正しく理解しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率			
問1	ソ		56.1	41.6	2.3		8.4	5.7	27.5
問2	タ		58.5	39.7	1.9	18.8	12.4	8.5	
問3	チ		51.7	45.9	2.4	8.5	13.6		23.8
問4	ツ		72.8	24.1	3.1		4.3	16.5	3.4

【考察】

問4以外は50%台の正答率であった。問1で多かった誤答は で、その割合は30%に近い。傍線部の後の展開で、千波の両親が嬉しそうに演奏していることに着目して を選択したものと思われる。千波の両親はなぜ「ぼんやりと僕を見上げていた」のかを、本文を最後まで読み、千波たちの感じている「戸惑い」の正体を明らかにして解答する必要がある。問2は傍線部の直前に注目する。千波の父が「ちゃんと僕の顔を見て、僕の名前を呼んだ」ことから、「タケル」を亡き息子とは別の人格として認めていることが判断できる。問3では の誤答率が高めであったが、千波の兄がフルートを吹かなかったことをタケルが知った後のことなので、兄の代わりに演奏ができた喜びは当てはまらない。千波の家族とともに「素敵な曲が奏でられた」

ことに満足していることから，千波の家族とより親密な関係になったことを実感していると考えられる。

四 古文

問1は動詞の活用の基本的な知識を問う問題。問2は品詞の識別，問3は係り結びの法則の基本的な知識を問う問題。問4は基本的な語句の意味を文脈から捉えられるかをみる問題。問5は文脈を踏まえて内容を正しく理解しているか，問6は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
問1	テ		44.7	52.9	2.4	16.6	22.4	13.9	
問2	ト		39.8	58.2	2.0	4.3	38.1		15.9
問3	ナ		44.6	52.7	2.7	31.8	4.2	16.6	
問4	ニ		24.4	72.8	2.8	30.6		35.5	6.7
問5	又		40.5	56.5	3.0	19.5	13.9		23.0
問6	ネ		53.0	44.8	2.3	9.0	23.6	12.1	

【考察】

問1は「見ゆ」と「見る」との区別ができずに を選んだ者が多かったと思われる。問2の「あはれなり」は形容動詞で，意味的にも押さえておきたい重要古語の一つである。また，用言の活用の理解は，助動詞の理解にも欠かせないので，1年次のうちに着実に身につけるようにさせたい。問3は係り結びの知識を問う問題であった。教材の中でよく目にする係助詞「ぞ」を選択する者が31.8%と多かった。正答のためには，助動詞「けり」の活用も理解しておく必要があった。問4は「いみじ」「かなし」の意味を理解しているかどうか鍵であった。「いみじ」「かなし」ともに重要古語であるが，「かなし」のような古今異義語には特に注意が必要である。「せつなく」や「悲しく」を選んだ者が多くなったのは，現代語の意味を連想したためだと思われる。問5，問6は選択肢の内容から判断して正答が導き出せる問題である。問5は，本文に触れていない内容が選択肢の中に表現されているので，丁寧に読んで解答したい。また，問6は本文にある「音なし」の部分を「(遣唐使が)返答してくれない」と解釈し，「教えてくれない」という選択肢 を選んだ者が多かったようだ。

3 指導上の改善

正答率7割を超えた設問が24問中7問，6割を超えた設問が24問中10問であった。昨年は正答率7割を超えた設問が24問中11問であった。漢字・語句に関する問題で正答率が下がったのが主な原因である。

正答率が5割を切ったのが24問中8問あり，そのうちの5問が古文であった(昨年度は24問中6問，うち3問が古文)。現代文で正答率が5割を切った3問のうちの2問は第1問の問1の(1)「勝利をオサめた」の漢字の書き取りの問題，問2「目から鼻へ抜ける」の慣用句の問題であった。日常生活ではほとんど使うことのない慣用句であったために，14.5%という極端に低い正答率になったと思われるが，読書等を通し，日常生活ではあまり用いない語彙・語句についても知識の定着を図る必要がある。正答率の低かったもう1問は第2問の問4，論旨の展開を正しく理解できたかを問う問題であった。筆者の主張を正しく理解する力を養うために，文章全体の構成を捉えたり要旨を書いてまとめたりする学習の工夫が求められる。

第4問の古文では，問1「動詞の活用」，問2「品詞の識別」，問3「係り結びの法則」，問

4「語句の意味」を問う問題がいずれも正答率5割を切った。特に問4「いみじうかなしくて」の意味を問う問題の正答率が低かった。古語「かなし」を現代語の「悲しい」と捉え、解答したものが多かったと思われる。現代語の語彙に引きずられてしまいがちな古語の学習には、特に留意する必要がある。問1及び問3については、昨年度も同じ内容の出題をしており、正答率が32.3%から44.7%、28.3%から44.6%とそれぞれ上昇はしたものの十分と言える状況にはない。「動詞の活用」や「係り結びの法則」といった古典文法の学習は、基本古語の学習とともに古文読解の基礎となる。それら基礎となる事項を丁寧に暗記する学習が必要なことは明らかであるが、常に古典の世界に生きる人々と現代を生きる自分たちとを結びつけ、古語がどのように現代語に息づいているかを考え、言葉に興味・関心をもちながら学習することが必要である。

また、今年度の学力状況調査では、記入ミス・無答率に例年とは違う傾向が見られた。㊦漢字・語句では、昨年とほぼ同様の数値であったが、㊦現代文 評論・㊦現代文 小説・㊦古文と問いが進むにつれて記入ミス・無答率の割合が上昇し、㊦の問4、㊦の問5では3%を超え、例年1%程度であったのに比べてかなり高い割合となった。読解の速度という問題もあるが、じっくり文章を読み粘り強く設問に取り組む態度を養う必要がある。

さらに、以下の事項についても、各学校の実情に応じて重点的な指導が必要である（昨年度に引き続き、継続的な指導を要する事項を中心に列挙する）。

高校生が日常生活においてあまり使うことのない慣用的な表現及び敬語表現。

「品詞」についての知識や、「主語・述語」などの文の基本構造の理解。

論理的文章の構成及び要旨の捉え方。

まとまった分量の小説、評論を読む習慣。

「読む」ほか「聞く」「話す」「書く」等の言語活動。

古文における基礎的な知識（基本語彙、品詞の知識、動詞の活用や係り結びの法則等）。

我が国の文化と伝統に関心を寄せ、理解を深めることができる古典、生涯にわたって親しむことができる古典との出会い。

いま国語科には、すべての教科を貫き、学習を進めるときの基盤としての「国語」という教科の特性から、「読解力の育成」という課題が課せられている。上記に挙げた指導等を通し、読書力をつけ、語彙力を増しながら、書かれた資料から自分の考えをまとめ、明確に論述することができる力を養うことが求められている。

学 科 群 別 正 答 率 一 覧

問題 番号	記号	正答	全 体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			56.3	60.4	46.4	56.0
第一問	ア	3	23.3	25.1	19.6	21.8
	イ	2	84.4	86.8	79.0	82.6
	ウ	4	91.9	93.1	88.7	92.8
	エ	3	66.8	73.4	52.4	61.8
	オ	1	63.3	71.3	43.0	66.9
	カ	2	14.5	13.7	16.3	15.4
	キ	1	62.4	66.3	52.8	63.2
	ク	2	59.3	64.6	47.5	56.6
	ケ	2	72.9	76.6	64.6	70.7
	コ	3	75.0	79.9	63.1	76.1
第二問	サ	2	82.5	86.4	73.5	80.9
	シ	3	75.8	80.9	64.3	72.9
	ス	4	51.4	57.0	38.4	49.7
	セ	1	41.3	45.8	30.7	40.5
第三問	ソ	1	56.1	60.3	46.2	55.2
	タ	4	58.5	63.3	46.7	58.6
	チ	3	51.7	56.6	39.9	51.6
	ツ	1	72.8	78.2	60.1	71.9
第四問	テ	4	44.7	48.6	34.4	48.2
	ト	3	39.8	45.2	27.5	37.0
	ナ	4	44.6	47.3	36.5	50.2
	ニ	2	24.4	27.8	16.0	25.7
	ヌ	3	40.5	45.0	29.8	40.2
	ネ	4	53.0	56.9	43.1	54.3

「数学」ペーパーテスト結果と考察

出題のねらいと内容

数学 で学習する「数と式」、「一次不等式」、「二次方程式」、「二次関数とそのグラフ」、「二次関数の値の変化」について、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、後半では複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

1～6は、「数と式」についての問題、7～9は、「一次不等式」についての問題、10～12は、「二次方程式」についての問題、13～16は、「二次関数とそのグラフ」についての問題、17～20は、「二次関数の値の変化」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

1, 2では、式の展開と乗法公式の活用ができるかどうかをみようとした。

3は、たすきがけを利用した因数分解の基本問題で、

4は、その応用問題である。

5, 6では、無理数についての四則演算の計算力をみようとした。

7では、不等式の性質をもとに一元一次不等式を解く力を、

8では、不等式の基本性質と不等号のもつ意味について理解できているかをみようとした。

9は、連立一元一次不等式を解き、その解の存在する範囲にある整数を、数直線の活用を通して求める問題である。

10では、因数分解を利用する二次方程式の解法を通して、因数分解と二次方程式の解の意味についての理解をみようとした。

11では、平方の形に変形した二次方程式の解法を通して、2乗と平方根の意味についての理解をみようとした。

12は、二次方程式の解の公式の定着と活用の力をみる問題であるが、平方の形に変形する解法を用いれば中学校の学習内容で解くことができる問題である。

13では、二次関数のグラフの平行移動についての理解を、

14では、二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみようとした。

15は、グラフが通る点の意味を理解し、三元一次連立方程式を立てるか、与えられた3点のうち2点が x 軸との交点であることを活用して、与えられた条件を満たす二次関数を求める問題である。

16は、関数概念の基本となる記号 $f(x)$ についての理解を問う問題である。

17は、座標平面上で二次関数のグラフの平行移動が正しく行えるかをみようとした。

18は、二次関数を標準形に変形する計算力、式変形の結果からグラフの頂点の座標を読み取る力及び原点に関する対称移動が正しく行えるかをみようとした。

19は、二次関数のグラフを通して、二次関数の値の変化を考察し、最大値・最小値を求めることができるかをみようとした。

20は、二次関数のグラフと x 軸との位置関係から、その共有点に関して考察する力をみようとした。

結果と考察

1 $(3x - y)(2x + 3y) = \boxed{\text{ア}} x^2 + \boxed{\text{イ}} xy - \boxed{\text{ウ}} y^2$

式の展開を通して分配法則の理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ア	6	77.8%	22.0%	0.2%	$6x^2 + 9xy - 3y^2$ (5.0%) $6x^2 + 6xy - 3y^2$ (1.4%) など
イ	7				
ウ	3				

【考察】昨年とほぼ同じ問題で、昨年の 70.1% から約 8 ポイント正答率が上昇した。xy の項の係数の誤りが多く見られた。分配法則や正負の数の計算についての理解が不十分であることが伺える。同類項の整理の仕方や分配法則について、よりていねいな指導が求められる。

2 $(x - 2y)^3 = x^3 - \boxed{\text{エ}} x^2y + \boxed{\text{オカ}} xy^2 - \boxed{\text{キ}} y^3$

三乗の展開公式の活用能力と計算力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
エ	6	56.3%	42.5%	1.2%	$x^3 - 2x^2y + 12xy^2 - 8y^3$ (2.9%) $x^3 - 4x^2y + 12xy^2 - 8y^3$ (2.1%) など
オ	1				
カ	2				
キ	8				

【考察】昨年と y の係数を変えただけの問題である。昨年の正答率 50.6% に比べて、約 6 ポイント上昇したが、 x^2y の係数を間違えた誤答が多く見られた。 $(a \pm b)^3$ の展開公式は、今後の学習においても使用頻度の高いものであり、確実に身に付けさせたい公式の一つである。

3 $2x^2 + 5x + 3 = (\boxed{\text{ク}} x + \boxed{\text{ケ}})(x + \boxed{\text{コ}})$

因数分解の理解度と計算力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ク	2	68.4%	30.1%	1.5%	$(2x + 1)(x + 3)$ (5.4%) $(2x + 5)(x + 3)$ (3.3%) など
ケ	3				
コ	1				

【考察】係数を変えただけで、昨年とほぼ同様の因数分解である。正答率も昨年の 70.4% とほぼ変わらない。たすき掛けにより因数を見つける際、係数を取り違えたと思われる誤答が多く見受けられた。因数分解した後、右辺を展開して左辺と一致するかどうかの確認をする習慣を身に付けさせたい。

$$4 \quad x^2 - xy - 6y^2 + 3x + y + 2 = (x - \boxed{\text{サ}} y + \boxed{\text{シ}})(x + \boxed{\text{ス}} y + \boxed{\text{セ}})$$

二つの文字を含む整式の因数分解を，一つの文字に着目するなどして正確に処理できるかをみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
サ	3	34.3%	57.4%	8.3%	(x-3y+1)(x+2y+2) (5.3%) (x-2y+1)(x+3y+2) (4.7%) など
シ	2				
ス	2				
セ	1				

【考察】昨年と係数を変えただけの問題である。昨年の正答率 35.1% とほぼ同じ正答率であったが，定着し切れていない。誤答例からは，たすき掛けによる因数分解や負の数の処理など基礎的な計算力が身に付いていないことが伺える。まずは，3 のような整式のたすき掛けによる因数分解の定着を図ることが重要である。その上で，二つ以上の文字を含む整式の因数分解では，一つの文字に着目して整理することのよさを十分理解させる指導をしたい。

$$5 \quad (3\sqrt{2} + \sqrt{3})(\sqrt{2} - \sqrt{3}) = \boxed{\text{ソ}} - \boxed{\text{タ}} \sqrt{\boxed{\text{チ}}}$$

無理数のかけ算を通して，計算力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ソ	3	58.9%	36.2%	4.9%	3-3√6 (3.4%) 3-4√6 (3.2%) など
タ	2				
チ	6				

【考察】昨年と同じ問題で，昨年の正答率 59.0% とほぼ同じである。誤答例に見られるように，符号を取り違えたことによる誤りが多く見られた。分配法則をきちんと理解した上で，符号の処理をきちんと行えるよう指導していく必要がある。

$$6 \quad \frac{\sqrt{3}+1}{\sqrt{3}-1} = \boxed{\text{ツ}} + \sqrt{\boxed{\text{テ}}}$$

無理数の割り算を通して，分母を有理化する方法の理解度と計算力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ツ	2	56.0%	38.4%	5.6%	1+√3 (7.0%) 4+√3 (3.3%) 3+√3 (2.6%) など
テ	3				

【考察】誤答例を見る限りでは，分母が平方根の差で表されたときの有理化の処理の仕方については，ある程度理解していると思われる。しかし，分母及び分子を展開する際に誤ったと思われるものや，分子が和の形で表されたときの分数の約分で誤ったと思われるものも多く見られた。また，それほど難解とは言えないにも関わらず無答率が高いことから，粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせる指導が望まれる。

7 1次不等式 $2(4-x) > x+2$ を解くと、 である。

$$x < 3 \quad x > 3 \quad x < \frac{10}{3} \quad x > \frac{10}{3} \quad x < 2 \quad x > 2$$

一次不等式を解く力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ト		73.2%	25.4%	1.4%	$x > 2$ (9.7%), $x < 3$ (6.0%) など

【考察】昨年と同様の内容であるが、項の数が減ったことにより、若干正答率が増加したと思われる。誤答例としては、両辺に負の数をかけたときに不等号の向きが変わることを理解していないことによるものや分配法則を正確に適用できなかったと思われるものが多く見られた。かつては中学校で指導していた基礎的・基本的な内容であり、今後の利用度も高いことなどから、確実にできるように指導を早期に行う必要がある。

8 $x > y$ ならば $\frac{3-2x}{4}$ $\frac{3-2y}{4}$ である。

$$> < =$$

不等式の基本性質と不等号のもつ意味についての理解度をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ナ		49.5%	49.0%	1.6%	(33.4%) (5.5%) (5.1%) など

【考察】この問題は、今年度初めての出題である。誤答例は、 $x > y$ が 33.4%と極めて高い。これは、 $x > y$ ならば $-x < -y$ であることをよく理解していないためと思われる。また、分数になっていることにより惑わされたとも思われる。不等式の基本性質と不等号のもつ意味について、よく理解させる指導が求められる。

9 連立不等式 $\begin{cases} 7x+4 > 4x+13 \\ 5x-6 < 3x+4 \end{cases}$ の解に含まれる整数は である。

一元一次連立不等式の解法と解の意味、数直線の理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
二	4	59.6%	35.8%	4.7%	5 (10.5%), 3 (9.0%) など

【考察】昨年と似た内容であるが、正答率が 12.7 ポイント増加した。これは、 x の項を左辺に移項したときの係数が昨年は負であったのに対して今年は正であることが大きな理由と考えられる。まず、二つの一次不等式を確実に解けるようにし、それぞれの解の表す範囲を数直線に表すことができるようになることが大切である。一元一次連立不等式の解の存在する範囲がきちんと押さえられれば、その解に含まれる整数を求めることは、それほど難しくない。

10 2次方程式 $x^2 - x - 6 = 0$ の解は, $x = -$, である。

因数分解を用いて, 二次方程式の解を求める力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
又	2	70.2%	27.8%	2.0%	$x = -3, 2$ (11.3%), $x = -1, 6$ (2.2%) など
ネ	3				

【考察】昨年とほぼ同様の内容の出題である。正答率は昨年が 63.1% であり, 約 7 ポイント増加した。これは昨年が, $x^2 + 5x - 6 = 0$ とややミスを誘発しやすい係数であったためと思われ, 中学校で学習する内容であることを考えると正答率は決して高いとはいえない。高校数学で頻出する計算であり, 確実に身に付けさせたい内容である。

11 2次方程式 $(x-5)^2 = 6$ の解は, $x =$ $\pm \sqrt{\text{ハ}}$ である。

平方完成された二次方程式の解法を通して, 二乗や平方根についての理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ノ	5	68.2%	27.3%	4.5%	$6 \pm \sqrt{5}$ (2.3%), $5 \pm \sqrt{3}$ (1.9%) など
ハ	6				

【考察】昨年と用いた数は異なるものの本質は同じである。正答率は昨年の 65.8% に対して若干増加した。このタイプの二次方程式は, 中学校でも学習しているが, 高等学校で二次方程式の解の公式を学習したため, 左辺を展開して解の公式で解こうとして, 間違ってしまった者もいたと思われる。二次方程式の解の公式も平方完成された形の二次方程式から導出していることを確認しながら, その定着を図りたい。また, この問題については, 無答率が昨年の 1.2% から大幅に増加していることも気になる。

12 2次方程式 $x^2 - 4x + 2 = 0$ の解は, $x =$ $\pm \sqrt{\text{フ}}$ である。

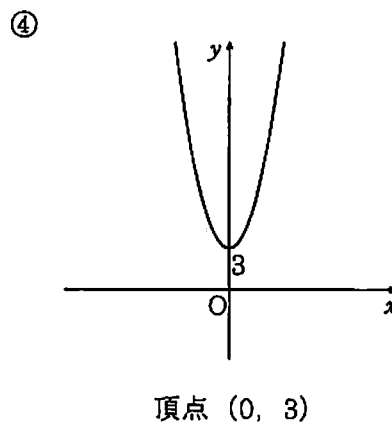
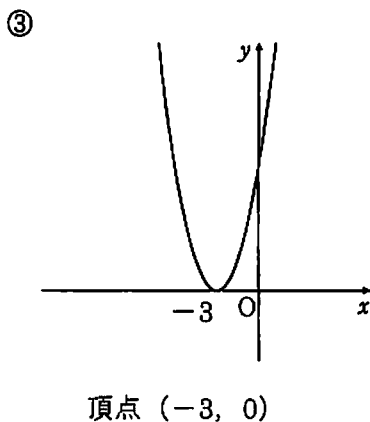
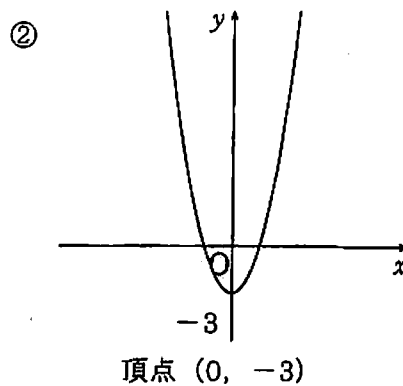
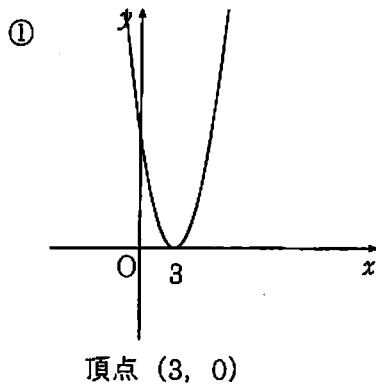
二次方程式の平方完成による解法や解の公式についての理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ヒ	2	55.9%	37.8%	6.3%	$4 \pm \sqrt{2}$ (5.9%), $2 \pm \sqrt{4}$ (3.1%) $2 \pm \sqrt{6}$ (2.3%) など
フ	2				

【考察】一昨年, 昨年と同じ問題で, 正答率は 63.2% 56.5% 55.9% と年々低下している。誤答例も昨年と同じような結果となってしまった。二次方程式の解の公式は, 高校ではよく使用されるので, 演習を積み重ねながら定着を図りたい。

なお, これは, 平成 14 年度文部科学省実施の高校 3 年生を対象とする教育課程実施状況調査の問題で, その際の通過率は 40.2% であった。

- 13 次の①～④のグラフは、2次関数 $y=x^2$ のグラフを平行移動したものである。
 この中で、 $y=x^2-3$ のグラフは で、 $y=(x-3)^2$ のグラフは である。



二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
へ	②	72.1%	24.6%	3.3%	③ (13.3%), ④ (4.4%), ① (4.3%)
ホ	①	61.8%	35.1%	3.1%	④ (14.1%), ③ (11.8%) ② (5.9%)

【考察】一昨年、昨年と同じ問題で、正答率の推移は、へで 77.1%→72.1%→72.1%、ホで 66.5%→60.5%→61.8%となっている。正答率、誤答例とも昨年と同じような結果となっており、 y 軸方向の平行移動より x 軸方向の平行移動の正答率が低くなっている。ただ、への無答率は、2.0%から 1.3 ポイント増加している。

なお、これは、平成 14 年度文部科学省実施の高校 3 年生を対象とする教育課程実施状況調査の問題で、その際の通過率はへが 75.5%、ホが 58.0%であった。

- 14 2次関数 $y=x^2-2x+3$ のグラフの頂点の座標は (,) である。

二次式の平方完成を用いて、二次関数の頂点を求める力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
マ	1	59.3%	37.3%	3.4%	(2, 3) (12.7%), (1, 3) (2.9%) (1, 4) (1.9%) など
ミ	2				

【考察】昨年と係数が異なるものの、ほぼ同様の出題である。正答率は、昨年の 58.0%に比べやや増加

した。誤答例も昨年とほぼ同じ傾向であり，式の係数をそのまま読み取ったものが多く見受けられる。二次関数において，平方完成により頂点の座標・軸の方程式を求めることは，極めて重要な事項であり，確実な定着を図りたい。

15 グラフが3点(0, 4), (1, 0), (2, 0)を通る2次関数は，

$$y = \boxed{\text{ム}} x^2 - \boxed{\text{メ}} x + \boxed{\text{モ}} \text{である。}$$

与えられた条件を満たす二次関数を求める方法を判断し，計算する力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ム	2	45.0%	45.8%	9.2%	$y = 2x^2 - 2x + 4$ (3.2%) $y = 4x^2 - 1x + 2$ (2.1%) など
メ	6				
モ	4				

【考察】昨年とほぼ同様の出題である。昨年の正答率は41.1%で，約4ポイント増加した。ただ，今年では与えられた3点が0を含んでおり，やや計算がしやすくなったこともあるので，単純に比較することはできない。しかし，やや計算がしやすくなったにも関わらず，無答率が昨年の9.7%と同程度であり，依然として高いのが気がかりである。

16 $f(x) = x^2 - 4x - 5$ のとき $f(-2) = \boxed{\text{ヤ}}$ である。

関数記号 $f(x)$ の意味の理解と，正負の数の計算力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ヤ	7	75.7%	18.8%	5.5%	5 (3.2%), 8 (2.6%), 2 (2.5%), 4 (2.5%) など

【考察】昨年と係数が異なるものの，ほぼ同じ問題である。昨年の正答率は72.0%であり，若干増加した。これは， x^2 の係数が負であった昨年に比べて，計算しやすかったためと考えられる。関数記号 $f(x)$ の意味をよく理解した上で，確実に処理する計算力が求められる。

17 2次関数 $y = ax^2$ のグラフをSとし，Sをx軸方向に1，y軸方向にaだけ平行移動したグラフをTとする。下の ~ の点のうちSとTの共有点は $\boxed{\text{ユ}}$ である。

$$(-1, -a) \quad (-1, a) \quad \left(-\frac{1}{2}, -a\right) \quad (0, 0) \quad \left(\frac{1}{2}, a\right) \quad (1, -a) \quad (1, a)$$

二次関数のグラフの平行移動に関する理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ユ		42.6%	48.7%	8.8%	(12.7%), (10.6%), (9.0%) など

【考察】二次関数のグラフの平行移動がきちんと把握でき，そのグラフを座標平面上に表現して考える力が求められる問題である。誤答例を見ると，x軸方向およびy軸方向の平行移動の際の符号の扱いを間違えていると思われる。係数が文字だったためにとまどった者もいたと思われるが，正答率が50%

に達しなかったのは残念である。もう一度，平行移動について確認の指導を行う必要がある。

18 放物線 $y = x^2 + 6x + 1$ と原点に関して対称な放物線の頂点の座標は (,) である。

二次関数の頂点の座標の読み取りとグラフの対称性の理解をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
ヨ	3	56.6%	35.2%	8.2%	(6, 1)(6.3%), (1, 6)(2.2%)
ラ	8				(3, 2)(2.1%) など

【考察】昨年直線 $x = p$ についての対称を考えさせる問題よりは，イメージしやすいためか，正答率も昨年よりも高かった。しかし，誤答例を見ると，平方完成せずに，ただ単に係数から読み取って頂点の座標を求めたと思われるものがあり，放物線の頂点の求め方を再確認する必要がある。また，原点に関して対称であるということ，座標平面上で図示して理解させる指導が求められる。

19 2次関数 $y = -x^2 - 4x + 4$ ($-3 \leq x \leq 0$) の最大値は ，最小値は である。

二次関数の値の変化を的確に把握し，最大値及び最小値を求める力をみる問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
リ	8	43.0%	50.4%	6.5%	7(21.9%), 4(10.0%) など
ル	4	60.8%	32.4%	6.8%	0(9.0%), 3(5.0%) など

【考察】昨年とは係数が異なるものの，ほぼ同じ問題である。昨年の正答率は，リで 37.8% ，ルで 58.5% であり若干増加した。誤答例としては，単に定義域の両端の値を代入して求めたと思われる者が多く見られた。二次関数の最大・最小を考える場合には，定義域の中に頂点の x 座標が含まれるかどうかポイントになる。二次関数のグラフを活用することのよさを認識させる指導が大切と思われる。

なお，無答率はいずれも 1 ポイント程度高くなっている。

20 2次関数 $y = -x^2 + x + k$ が x 軸と共有点をもたないとき，定数 k の値の範囲は

$$k < -\frac{\text{レ}}{\text{ロ}}$$

である。

グラフの条件から，二次関数と x 軸との共有点の個数を決定するための判別式の利用の仕方を問う問題

記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
レ	1	47.5%	40.7%	11.8%	$-\frac{1}{2}$ (8.5%), $-\frac{4}{1}$ (2.4%), $-\frac{2}{1}$ (2.3%) など
ロ	4				

【考察】昨年は，定数 k の値の範囲を与えて，二次関数のグラフと x 軸との共有点の個数を求める問題であった。昨年の正答率は 55.4% で 8 ポイント減少した。これは，昨年は答えが 0, 1, 2 に限定される問題であったこともあると思われる。この問題は， $y = -x^2 + x + k$ のグラフの頂点の y 座標と x 軸

との関係を用いて求める方法と判別式Dを用いて解く方法がある。これらはともに重要な考え方であり、グラフを活用して両者の関係をよく理解させる指導が大切と思われる。単純に比較はできないが、無答率が大幅に増加していることも気になる。

指導上の改善

今年と昨年とで共通する問題5，問題12，問題13で比較すると，正答率の差が-0.1ポイント，-0.6ポイント，±0ポイント，+1.3ポイントで，平均+0.15%であることから，出来は昨年とほぼ同程度であったと考えられる。しかし，無答率を同じ問題で比較すると，平均で0.4ポイント増加している。また，昨年の類題に関しても同様に無答率が若干増加している。これは，数学に対して興味・関心を持たない生徒やものごとを簡単にあきらめる生徒が若干増えていると見ることもできる。今後も，この傾向が続くとは限らないものの，数学を学習する意義，数学的な見方や考え方のよさ，数学の美しさ，文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解させることにより，数学への興味・関心を持たせ，学習意欲を高めることを大切にして指導する必要がある。また，ITを積極的に活用して，現実の生活を反映した問題を扱い，実生活との関連を重視した学習にも取り組ませたい。授業の導入の5分間ぐらいでもIT機器を用いて，生徒の気を引き付けることができると，その授業がスムーズに進むという報告もある。従来の授業スタイルに固執することなく，様々な工夫をお願いしたい。

次に，正答率の分布を見ると，正答率「40%未満」が1問，正答率「40%以上60%未満」が12問，正答率「60%以上80%未満」9問であった。昨年の正答率「40%未満」が4問，正答率「40%以上60%未満」が9問より改善したように思われるが，数値がやや計算しやすい問題もあり，単純に比較して大きく改善したとは言えない。裏を返せば，このことは，計算が多少複雑になったり，少し問題の形が変わったりすると正答率が落ちることを意味しており，本質をよく理解させる指導が求められる。

この調査問題の内容は，学習指導要領で求めている基礎的・基本的問題である。これらを直接同じ形で用いることはなくとも，これらの問題を解く際に理解しなければならない考え方は，生徒たちがこれから様々なことを考えるために大切なものである。言うまでもないことだが，普段から授業を大切にし，授業のポイントとなるところをきちんと教えることが大切である。そして発問を工夫し，数学の学習を単に問題を解いて答えを求めるなどの知識の習得や技能の習熟にとどめるのではなく，学習の必要性に気づかせ，数学的な見方や考え方のよさが認識できるようにすることが大切である。そのためには，一方的な授業にならないよう，数学的活動を工夫して実践することにより，創造性の基礎を培い，数学を活用する能力と態度を育成することが求められる。

学科群別正答率一覧

問題番号	記号	ねらい	全体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			58.8%	65.5%	34.4%	56.8%
1	アイウ	分配法則を用いて式の展開ができる	77.8%	83.4%	64.4%	75.8%
2	エオカキ	三乗の展開公式を用いて式の展開ができる	56.3%	65.5%	33.8%	53.9%
3	クケコ	たすきがけによる因数分解ができる	68.4%	77.2%	47.6%	63.9%
4	サシスセ	一つの文字に着目してやや複雑な式の因数分解ができる	34.3%	40.6%	16.3%	32.7%
5	ソタチ	無理数を含む式の展開ができる	58.9%	69.0%	35.3%	52.8%
6	ツテ	やや複雑な無理数について分母の有理化ができる	56.0%	66.2%	30.7%	50.4%
7	ト	1次不等式を解くことができる	73.2%	79.8%	56.1%	67.3%
8	ナ	不等式の基本性質と不等号の意味を理解している	49.5%	55.3%	35.8%	39.1%
9	ニ	連立一元一次不等式を解くことができる。不等式の解を数直線と対応させて理解している	59.6%	67.9%	37.0%	50.8%
10	ヌネ	簡単な式の因数分解または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	70.2%	78.0%	52.2%	66.1%
11	ノハ	平方根の考え方または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	68.2%	77.6%	47.6%	59.7%
12	ヒフ	平方完成または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	55.9%	65.9%	33.4%	49.4%
13	ヘ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	72.1%	76.7%	55.2%	70.6%
	ホ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	61.8%	68.7%	36.5%	59.8%
14	マミ	二次関数の式からグラフの頂点を求めることができる	59.3%	67.6%	23.1%	58.6%
15	ムメモ	グラフの通過点から二次関数の式を求めることができる	45.0%	49.2%	7.9%	47.4%
16	ヤ	関数記号 $f(x)$ の意味を理解し、値を求めることができる	75.7%	81.4%	50.2%	73.5%
17	ユ	二次関数の値の変化をグラフと対応付けて理解している	42.6%	44.2%	27.8%	45.0%
18	ヨラ	二次関数の頂点を原点に関して対称に移動できる	56.6%	62.2%	13.0%	58.1%
19	リ	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値を求めることができる	43.0%	47.6%	13.2%	47.0%
	ル	定義域の意味を理解し、二次関数の最小値を求めることができる	60.8%	65.8%	29.7%	62.5%
20	レロ	二次関数のグラフとx軸との関係を理解している	47.5%	50.8%	9.6%	66.0%

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」の 3 つの領域について、英語を理解し、英語で表現するなどのコミュニケーション能力と、コミュニケーションを図るために必要となる英語の理解力をみることをねらいとした。

今年度は、財団法人日本英語検定協会の「英語能力判定テスト」の宮城県版を難易度別に 3 種類作成し、受検者各自が自分の実力に合ったテストを受検し、より客観的な結果（「あなたは 級レベルの力があります。」）をフィードバックすることによって、英語学習のモチベーションを高めることをねらいとした。

3 種類の問題の名称とレベルは以下のとおりである。

テスト A：出題レベルは英検準1級～2級程度。英検1級から5級までの力を測定できる。

テスト B：出題レベルは英検2級～3級程度。英検準1級から5級までの力を測定できる。

テスト C：出題レベルは英検準2級～4級程度。英検2級から5級までの力を測定できる。

今回の各テストの受検者数は、テスト A が 315 名、テスト B が 3,704 名、テスト C が 11,257 名であった。各級相当者数は、準 1 級レベルが 5 名、2 級レベルが 91 名、準 2 級レベルが 971 名、3 級レベルが 4,489 名、4 級レベルが 3,438 名、4 級レベル未満が 6,282 名である。

テスト A、B、C ともに各問題のねらいと内容はほぼ同じである。

①では、英語コミュニケーションの基礎となる語彙・熟語・文法の知識を測定する。

②では、英文レポートや E-mail などを書く上で基礎となる英文構成力を測定する。

③では、会話の流れを的確に読み取ったり、キーワードが何かを考えながら文章を的確に読み取る力を測定する。

④では、長文の内容を的確に読み取る力を測定する。

リスニングテスト Part 1 では、会話の内容を正確に聞き取る力を測定する。

リスニングテスト Part 2 では、まとまった英文の内容を正確に聞き取る力を測定する。

2 結果と考察

テスト A について

① 文法・語法・語彙に関する知識を試す問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率
1	48.6	51.1	0.3	「2」 26.3 % , 「3」 7.9 % , 「4」 16.8 %
2	51.1	48.9	0.0	「2」 11.7 % , 「3」 14.9 % , 「4」 22.2 %
3	53.7	45.7	0.6	「1」 11.7 % , 「3」 26.0 % , 「4」 7.9 %
4	35.6	63.8	0.6	「1」 18.4 % , 「3」 14.3 % , 「4」 31.1 %
5	36.2	61.9	1.9	「1」 14.0 % , 「2」 28.6 % , 「3」 19.4 %
6	37.1	62.2	0.6	「1」 11.4 % , 「2」 20.0 % , 「4」 30.8 %
7	43.5	55.9	0.6	「2」 14.9 % , 「3」 29.8 % , 「4」 11.1 %
8	29.8	68.9	1.3	「1」 21.3 % , 「2」 26.0 % , 「4」 21.6 %
9	21.6	77.8	0.6	「1」 28.3 % , 「2」 20.0 % , 「3」 29.5 %
10	24.8	73.7	1.6	「1」 27.0 % , 「3」 16.2 % , 「4」 30.5 %

1	11	23.8	74.3	1.9	「1」 17.1 % , 「2」 29.2 % , 「4」 27.9 %
	12	20.3	78.1	1.6	「1」 22.9 % , 「2」 34.9 % , 「3」 20.3 %
	13	20.0	77.1	2.9	「1」 31.7 % , 「2」 25.1 % , 「4」 20.3 %
	14	15.2	83.5	1.3	「2」 32.7 % , 「3」 28.6 % , 「4」 22.2 %
	15	23.5	74.6	1.9	「2」 17.5 % , 「3」 33.0 % , 「4」 24.1 %
	16	87.6	12.1	0.3	「1」 6.0 % , 「3」 4.4 % , 「4」 1.6 %
	17	38.4	61.3	0.3	「1」 32.7 % , 「3」 18.1 % , 「4」 10.5 %
	18	36.8	62.2	1.0	「1」 12.4 % , 「2」 16.2 % , 「3」 33.7 %
	19	29.5	69.8	0.6	「1」 13.7 % , 「3」 26.7 % , 「4」 29.5 %
	20	24.1	74.9	1.0	「1」 34.0 % , 「2」 22.9 % , 「4」 18.1 %
	21	14.9	83.2	1.9	「1」 16.5 % , 「2」 32.7 % , 「4」 34.0 %
	22	34.0	64.4	1.6	「2」 29.5 % , 「3」 21.9 % , 「4」 13.0 %
	23	21.0	78.1	1.0	「1」 25.7 % , 「3」 31.1 % , 「4」 21.3 %
	24	20.6	78.4	1.0	「1」 15.2 % , 「2」 14.0 % , 「4」 49.2 %
	25	23.5	74.9	1.6	「1」 24.8 % , 「3」 24.4 % , 「4」 25.7 %
	26	74.9	24.8	0.3	「1」 13.7 % , 「2」 7.3 % , 「4」 3.8 %
	27	37.8	61.3	1.0	「2」 8.6 % , 「3」 36.5 % , 「4」 16.2 %
	28	21.3	76.2	2.5	「2」 29.2 % , 「3」 14.0 % , 「4」 33.0 %
	29	29.5	68.3	2.2	「2」 10.5 % , 「3」 28.9 % , 「4」 28.9 %
	30	21.9	76.5	1.6	「1」 7.9 % , 「2」 61.9 % , 「4」 6.7 %

【考察】No.1 から No.7 までは比較的正答率が高いが、No.8 以降は正答率が 30 % を下回っているものがほとんどである。誤答率の高さが非常に顕著だったのは No.24 と No.30 で、それぞれ not lift a finger , be about to do という熟語を知っているかどうかで正誤を分けた。特に後者では、「前置詞の次は動名詞」という文法上の規則と混同したものと思われ、選択肢 2 の leaving が 61.9 % にも上った。また、単語の意味だけではなく、どのような目的語等を伴って用いられるのかもよく知っておく必要がある。No.14 の undergo がよい例で、「検査・手術を受ける」という訳語を覚える以上に undergo an operation という実際に使われるフレーズで暗記するのが最良の方法であろう。

2) パラグラフの中で、前後関係を理解した上で、指定された部分を正しい語順に直す問題である。

問題番号	正答率	誤答率 +無答率		選択肢ごとの誤答率	
2	31	59.7	40.3	2 番目	「1」 1.6 % 「2」 2.1 % 「4」 1.2 % 「5」 32.0 %
				4 番目	「1」 9.0 % 「3」 4.1 % 「4」 22.6 % 「5」 2.2 %
	32	6.0	94.0	2 番目	「1」 33.2 % 「3」 20.4 % 「4」 31.7 % 「5」 4.7 %
				4 番目	「2」 4.9 % 「3」 33.9 % 「4」 34.9 % 「5」 1.5 %
	33	14.6	85.4	2 番目	「1」 22.3 % 「2」 20.7 % 「3」 21.0 % 「4」 9.7 %
				4 番目	「1」 5.6 % 「3」 12.2 % 「4」 36.1 % 「5」 6.3 %
	34	20.6	79.4	2 番目	「1」 4.7 % 「3」 5.4 % 「4」 5.0 % 「5」 4.7 %
				4 番目	「1」 33.9 % 「2」 6.6 % 「3」 5.3 % 「5」 26.1 %
	35	5.7	94.3	2 番目	「1」 34.8 % 「2」 10.7 % 「3」 20.1 % 「4」 14.8 %
				4 番目	「1」 10.4 % 「2」 9.1 % 「3」 19.1 % 「5」 29.8 %

「2 番目」・「4 番目」の選択率はそれぞれの選択肢を受検者が選んだ割合を示し、「正答率」は両方を正しく選択した受検者の割合を示す。

【考察】問題番号 No.31 以外はすべて正答率が低く、総合的な英語力が十分に身に付いていない。パラグラフの内容をつかむ力と同時に、並べ替える部分の前後にある語句に注目して正しく文を構成する力が必要とされる。文法、構文、イディオムなどの力が不足しているとなかなか正解は得られない。センター試験等の対策を考えても、今後の指導が必要な分野である。

3 英文の内容を理解して、空所に適切な語を補う問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	35.9	61.0	3.2	「1」23.5% , 「2」25.1% , 「3」12.4%
	37	59.7	36.5	3.8	「1」11.4% , 「2」11.4% , 「4」13.7%
	38	33.0	62.2	4.8	「2」14.9% , 「3」38.1% , 「4」9.2%
	39	20.6	73.7	5.7	「1」28.9% , 「2」29.2% , 「3」15.6%
	40	35.6	59.4	5.1	「1」12.7% , 「3」19.7% , 「4」27.0%

【考察】No.37 はある程度正答率が高かったが、それ以外はあまり良くできていない。英語力の基本となる語彙力をいかに高めていくかが今後の課題である。

4 パラグラフごとに内容を理解し、英語の質問に対する答えとして適切なものを選ぶ問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	35.6	56.2	8.3	「1」24.1% , 「2」19.7% , 「3」12.4%
	42	39.0	51.1	9.8	「1」15.6% , 「3」24.4% , 「4」11.1%
	43	21.6	67.0	11.4	「2」30.8% , 「3」21.0% , 「4」15.2%
	44	25.1	62.5	12.4	「1」23.2% , 「3」18.4% , 「4」21.0%
	45	27.9	59.0	13.0	「1」18.1% , 「2」22.5% , 「4」18.4%
	46	32.4	54.3	13.3	「1」23.5% , 「3」18.7% , 「4」12.1%
	47	17.5	69.2	13.3	「1」24.4% , 「2」21.6% , 「3」23.2%
	48	14.6	69.5	15.9	「1」19.0% , 「2」31.1% , 「3」19.4%
	49	23.2	62.5	14.3	「1」18.7% , 「2」21.0% , 「3」22.9%
	50	26.3	57.8	15.9	「1」19.7% , 「3」21.3% , 「4」16.8%

【考察】パラグラフの要点がつかめているかどうかのポイントである。目立った誤答例をみると、正確に読めていないというのも事実であるが、パラグラフのポイントからずれている部分を選んでいく場合が多い。パラグラフごとに概要をつかみながら読み、必要に応じて問題部分を選択肢と正確に参照できる英語力を身に付けさせる必要がある。

リスニングテスト …… Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	94.0	6.0	0.0	「1」 1.0 % , 「2」 0.0 % , 「3」 5.1 %
	2	87.6	12.4	0.0	「1」 10.5 % , 「3」 1.6 % , 「4」 0.3 %
	3	68.3	28.9	2.9	「1」 8.3 % , 「2」 10.2 % , 「3」 10.5 %
	4	46.7	52.4	1.0	「1」 3.5 % , 「2」 22.9 % , 「3」 26.0 %
	5	61.6	37.8	0.6	「1」 6.7 % , 「3」 26.3 % , 「4」 4.8 %
	6	51.4	46.7	1.9	「2」 3.5 % , 「3」 17.5 % , 「4」 25.7 %
	7	44.1	54.6	1.3	「1」 21.3 % , 「2」 17.1 % , 「3」 16.2 %
	8	48.6	51.1	0.3	「1」 26.0 % , 「3」 20.0 % , 「4」 5.1 %
	9	43.5	56.2	0.3	「1」 44.4 % , 「2」 5.1 % , 「3」 6.7 %
	10	38.4	60.0	1.6	「1」 24.4 % , 「3」 20.3 % , 「4」 15.2 %
	11	30.8	68.9	0.3	「1」 29.5 % , 「2」 22.9 % , 「4」 16.5 %
	12	48.9	50.8	0.3	「1」 18.7 % , 「2」 20.3 % , 「3」 11.7 %
	13	25.7	72.7	1.6	「2」 13.7 % , 「3」 40.0 % , 「4」 19.0 %
	14	27.9	71.4	0.6	「2」 27.3 % , 「3」 20.3 % , 「4」 23.8 %
	15	11.4	88.3	0.3	「1」 21.6 % , 「3」 58.7 % , 「4」 7.9 %

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 48.6%であった。No.1, 2 のように高い正答率になるものがある一方で、正答率より誤答率が高いものがある。No.9 は選択肢 1 (誤答) が正答率をわずかに上回っており、「運転免許の提示 = スピード違反」と早とちりしたか、運転手が言った wasn't がよく聞き取れなかったかのどちらかと思われる。No.13 では誤答の選択肢 3 が 40.0%に達しているが、電話をかけた人の our board を a board のように間違っ聞き取った人も多かったかもしれない。また、電話の主は It's about the new contract proposal...の後に I need to clarify ~と言っているため、contract (契約) が話題になっていることが分かる。英語では先に要点となることを述べてその後に補助内容が追加されることを覚えておく必要があるだろう。No.15 は、That's OK.の声の調子、This one matches my couch.の This が何を指すかなどがとらえきれなかったものと思われる。

リスニングテスト Part 2 まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	90.5	9.5	0.0	「2」 0.6 % , 「3」 5.7 % , 「4」 3.2 %
	17	86.0	13.0	1.0	「2」 5.7 % , 「3」 2.9 % , 「4」 4.4 %
	18	66.3	33.3	0.3	「1」 7.3 % , 「3」 18.1 % , 「4」 7.9 %
	19	41.3	58.7	0.0	「1」 13.7 % , 「2」 35.9 % , 「3」 9.2 %
	20	56.8	42.9	0.3	「1」 5.4 % , 「2」 17.5 % , 「4」 20.0 %
	21	35.2	63.2	1.6	「1」 12.7 % , 「3」 18.4 % , 「4」 32.1 %
	22	49.8	49.5	0.6	「2」 11.7 % , 「3」 22.2 % , 「4」 15.6 %
	23	41.0	59.0	0.0	「1」 22.5 % , 「2」 3.2 % , 「4」 33.3 %
	24	28.6	69.8	1.6	「1」 21.9 % , 「2」 30.8 % , 「4」 17.1 %
	25	11.4	87.6	1.0	「1」 30.8 % , 「2」 37.1 % , 「3」 19.7 %
	26	21.3	77.1	1.6	「2」 35.2 % , 「3」 19.7 % , 「4」 22.2 %
	27	22.9	76.2	1.0	「1」 25.7 % , 「2」 27.0 % , 「3」 23.5 %

28	12.7	86.3	1.0	「2」 39.0 % , 「3」 30.8 % , 「4」 16.5 %
29	57.8	42.2	0.0	「1」 14.0 % , 「2」 21.3 % , 「4」 7.0 %
30	32.7	66.3	1.0	「1」 22.5 % , 「3」 31.4 % , 「4」 12.4 %

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 43.6%であった。前半の No.16 ~ No.24 は比較的短い英文を聞いて、1つの問いに対する応答として正しいものを選ぶ問題である。後半の No.25 ~ No.30 は、比較的長い英文を聞いて、2つの問いに対する応答として正しいものを選ぶ問題である。(No.25 と No.26, No.27 と No.28, No.29 と No.30 がそれぞれ1つの長い英文に対する問いとなっている。)前半の正答率は 55.1%であり、後半の正答率は 26.5%である。テスト A は上位層しか受検していないのだが、No.25 以降の後半の問題形式は、高校 1 年生の段階ではかなり難しかったということが分かる。英文の内容が専門性の高い場合 (No.25 ~ No.28) に正答率が低くなっている一方で、英文の内容が一般的な話題である場合 (No.29 と No.30) には正答率が高くなっていることにも注目したい。

テスト B について

① 基本的な文法・語法・語彙に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率
1	74.9	24.8	0.3	「1」 9.2 % , 「3」 4.7 % , 「4」 11.0 %
2	75.8	24.0	0.2	「1」 12.0 % , 「2」 6.3 % , 「4」 5.6 %
3	51.4	48.3	0.3	「1」 30.8 % , 「3」 7.9 % , 「4」 9.6 %
4	45.9	53.6	0.4	「1」 8.9 % , 「3」 26.6 % , 「4」 18.1 %
5	50.0	49.7	0.3	「1」 10.1 % , 「2」 17.5 % , 「4」 22.1 %
6	27.2	72.3	0.4	「1」 34.1 % , 「2」 8.8 % , 「4」 29.5 %
7	42.8	56.9	0.4	「2」 25.6 % , 「3」 14.7 % , 「4」 16.5 %
8	27.6	72.0	0.4	「2」 22.7 % , 「3」 28.4 % , 「4」 21.0 %
9	21.3	78.0	0.6	「2」 19.9 % , 「3」 25.9 % , 「4」 32.3 %
10	26.5	72.9	0.7	「1」 21.1 % , 「2」 33.0 % , 「4」 18.8 %
11	20.3	79.1	0.6	「2」 32.9 % , 「3」 30.6 % , 「4」 15.6 %
12	15.7	83.6	0.8	「1」 17.9 % , 「3」 20.0 % , 「4」 45.6 %
13	17.7	81.7	0.7	「1」 39.1 % , 「2」 18.3 % , 「4」 24.3 %
14	18.6	80.6	0.7	「1」 23.8 % , 「2」 38.1 % , 「3」 18.7 %
15	15.6	83.5	0.9	「2」 33.9 % , 「3」 33.5 % , 「4」 16.1 %
① 16	71.2	28.5	0.4	「1」 3.6 % , 「2」 16.4 % , 「3」 8.5 %
17	79.0	20.6	0.4	「1」 3.9 % , 「3」 8.1 % , 「3」 8.6 %
18	55.5	43.9	0.6	「2」 22.7 % , 「3」 13.4 % , 「4」 7.8 %
19	58.0	41.4	0.6	「1」 11.8 % , 「2」 18.6 % , 「3」 11.0 %
20	31.7	67.1	1.2	「1」 18.7 % , 「2」 27.3 % , 「3」 21.1 %
21	23.7	75.6	0.7	「1」 10.6 % , 「2」 19.7 % , 「3」 45.2 %
22	27.6	71.6	0.9	「1」 32.8 % , 「3」 20.9 % , 「4」 17.8 %
23	20.1	79.2	0.7	「2」 45.7 % , 「3」 11.5 % , 「4」 22.1 %
24	21.9	77.2	0.9	「2」 35.5 % , 「3」 21.8 % , 「4」 19.8 %
25	30.7	68.5	0.8	「1」 30.8 % , 「3」 33.3 % , 「4」 4.3 %
26	25.8	73.3	0.9	「1」 7.5 % , 「2」 60.2 % , 「4」 5.6 %

27	34.4	64.6	0.9	「1」 15.2 % , 「3」 28.0 % , 「4」 21.5 %
28	16.5	82.2	1.2	「1」 8.8 % , 「3」 35.9 % , 「4」 37.6 %
29	30.3	68.5	1.2	「2」 25.9 % , 「3」 21.1 % , 「4」 21.5 %
30	25.0	73.9	1.1	「1」 11.4 % , 「3」 52.8 % , 「4」 9.7 %

【考察】全体の正答率は 36.0%であり，30 問中 16 問で正答率 30%を下回った。その中でも，No.12 ~ 15，No.28 は 20%以下であり特に低かった。No.12 は Although の意味が分からず young と近い意味の childish を選んだと思われる。No.13 は様々な料金に関する問題であり，正解は罰金を表す fine であるが tax とする誤答が目立った。No.14 は trip と destinations ,castle と elements をそれぞれ短絡的に結び付けたと思われる誤答が目立った。No.15 も No.14 と同様で，old house と replaced , appearance と review を結び付けたと思われる誤答が目立った。全般的に意味内容をよく考えるのではなく，知っている単語を選んだり，短絡的に結び付けたと思われる誤答が目立った。No.28 については使役動詞の用法がよく理解できていないと思われる。以上，全体の正答率から判断すると，基礎的語彙や文法・語法に関しては定着が不十分であると思われる。言語使用においては文法等の知識も重要であり，様々な機会をとらえて練習させ，身に付けさせる必要がある。

- ② 短い文章の内容を参考に，与えられた英語で，語順が正しい英文を構成することにより，言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率 +無答率		選択肢ごとの誤答率
31	12.6	87.4	2 番目	「1」 4.1 % 「2」 7.5 % 「3」 47.1 % 「4」 21.1 %
			4 番目	「1」 33.0 % 「2」 21.1 % 「4」 4.9 % 「5」 19.9 %
32	31.5	68.5	2 番目	「2」 18.3 % 「3」 22.8 % 「4」 9.0 % 「5」 7.7 %
			4 番目	「1」 26.0 % 「2」 7.1 % 「3」 22.1 % 「5」 4.4 %
33	58.7	41.3	2 番目	「1」 1.8 % 「3」 2.9 % 「4」 2.0 % 「5」 2.0 %
			4 番目	「2」 1.9 % 「3」 2.4 % 「4」 21.7 % 「5」 10.4 %
34	15.9	84.1	2 番目	「2」 15.9 % 「3」 9.2 % 「4」 14.1 % 「5」 9.4 %
			4 番目	「1」 12.4 % 「2」 17.2 % 「3」 13.4 % 「5」 25.8 %
35	5.6	94.4	2 番目	「1」 5.1 % 「2」 12.4 % 「4」 6.1 % 「5」 3.3 %
			4 番目	「1」 4.8 % 「3」 20.7 % 「4」 5.3 % 「5」 54.9 %

「2 番目」・「4 番目」の選択率はそれぞれの選択肢を受検者が選んだ割合を示し，「正答率」は両方を正しく選択した受検者の割合を示す。

【考察】全体の正答率は 25.0%であった。正答率が低かった No.31 では，2 番目に選択肢 3 を選んでいる生徒が 47.1 %いることから分かるように，接続詞 since を正しく使えなかったように思われる。正答率が最も低かったのが No.35 であった。compared with が分詞構文であることに気付かなかったことが原因であると思われる。

- ③ 短文会話を読み，会話の概要・要点を理解し，発言意図を読み取り，それに対応して表現する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率
36	87.4	11.6	1.0	「1」 3.1 % , 「2」 5.8 % , 「4」 2.6 %

3	37	65.7	33.1	1.2	「2」 13.0 % , 「3」 9.3 % , 「4」 10.8 %
	38	48.4	50.0	1.5	「2」 27.3 % , 「3」 11.9 % , 「4」 10.8 %
	39	26.0	72.3	1.7	「1」 10.8 % , 「2」 9.8 % , 「4」 51.7 %
	40	32.9	64.4	2.8	「1」 14.2 % , 「3」 16.0 % , 「4」 34.2 %

【考察】全体の正答率は 52.1%であった。No.39 と No.40 が比較的正答率が低かった。No.39 において、選択肢 4 を選んで間違っている生徒が 51.7 %もいるということは、forget to... , forget ~ ing の理解が不十分であることを示しているのかもしれない。また、選択肢 3 の must have left の意味を理解していたかどうかポイントであったと思われる。

- 4 英語の文を読み、書かれている概要・要点を理解し、書き手の意向などを読み取る能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	51.4	44.3	4.2	「1」 9.8 % , 「2」 18.6 % , 「3」 15.9 %
	42	21.5	73.5	5.0	「1」 20.3 % , 「2」 24.3 % , 「3」 28.8 %
	43	31.5	62.1	6.4	「1」 20.0 % , 「3」 21.4 % , 「4」 20.6 %
	44	41.5	51.6	6.8	「1」 17.3 % , 「3」 18.6 % , 「4」 15.7 %
	45	35.2	57.1	7.7	「1」 17.4 % , 「3」 24.0 % , 「4」 15.8 %
	46	26.3	65.1	8.5	「1」 26.8 % , 「3」 22.0 % , 「4」 16.4 %
	47	33.3	56.9	9.9	「1」 18.8 % , 「2」 23.2 % , 「4」 14.9 %
	48	20.4	68.8	10.8	「1」 19.0 % , 「2」 26.4 % , 「3」 23.4 %
	49	30.4	58.5	11.0	「1」 18.0 % , 「3」 22.7 % , 「4」 17.9 %
	50	29.8	59.1	11.1	「1」 15.1 % , 「2」 26.8 % , 「4」 17.2 %

【考察】No.41 ~ No.45 の平均正答率は 36.2%であった。No.42 の正答率が低かったが、more 型の比較級の構文が理解できていれば容易に間違いであると気付ける選択肢 3 を選んでの誤答率が 28.8%と一番高かった。比較表現が十分に理解されていないことと、文中の語句 (truck, expensive) から表面的な類推が行われたことが要因と考えられる。正解の選択肢 4 は文中の表現が一部書き換えられているだけである。

No.46 ~ No.50 の平均正答率は 28.0%であった。No.46 と No.48 の正答率が低かったが、No.46 の正解の選択肢は、本文中の内容が別の表現で書き換えられているものであり、内容の理解がある程度できていれば正解できる問題である。No.48 では、選択肢 2 の誤答率が 26.4%と高くなっている。... was tired, asleep などの語句から選択したものと思われる。代名詞が示す内容を確認し、誰が、何をしたのかというレベルでの理解が不十分である。表面的に、比較的簡単な語句を頼りに内容を類推するような読解の仕方だけでなく、文構造をしっかりと確認しながら精読する機会を持つことも必要である。

リスニングテスト …… Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

- リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率
1	85.1	14.4	0.5	「1」 3.1 % , 「2」 3.0 % , 「4」 8.2 %

リスニングテスト Part 1	2	81.7	17.7	0.7	「1」 4.1 % , 「3」 5.8 % , 「4」 7.7 %
	3	74.9	24.8	0.4	「1」 13.8 % , 「2」 4.3 % , 「4」 6.7 %
	4	72.2	27.2	0.6	「2」 18.1 % , 「3」 5.5 % , 「4」 3.6 %
	5	54.1	45.5	0.4	「1」 6.7 % , 「3」 12.2 % , 「4」 26.6 %
	6	45.6	53.9	0.6	「1」 15.1 % , 「2」 30.0 % , 「3」 8.8 %
	7	30.7	68.7	0.6	「1」 23.4 % , 「3」 19.4 % , 「4」 25.9 %
	8	47.3	52.2	0.5	「1」 13.0 % , 「2」 30.0 % , 「4」 9.3 %
	9	56.5	43.0	0.5	「1」 12.4 % , 「2」 17.3 % , 「4」 13.4 %
	10	37.2	62.3	0.5	「2」 11.9 % , 「3」 20.1 % , 「4」 30.3 %
	11	46.9	52.8	0.2	「2」 7.3 % , 「3」 17.0 % , 「4」 28.6 %
	12	41.4	58.4	0.2	「1」 13.3 % , 「2」 5.4 % , 「3」 39.6 %
	13	35.3	64.2	0.5	「1」 16.7 % , 「2」 32.3 % , 「4」 15.3 %
	14	41.2	58.4	0.4	「1」 26.6 % , 「2」 24.3 % , 「3」 7.5 %
	15	11.1	88.6	0.3	「1」 38.8 % , 「2」 37.2 % , 「3」 12.6 %

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 50.7%であり、正答率が 50%を下回った問題は 9 問であった。特に No.7, No.10, No.13 は 30%台、No.15 に至っては 11.1%とかなり低いものであった。共通して言えることは、聞き取る内容が複雑になってくると、単純に会話の中に出てきた語句が入っている解答を選ぶ傾向があるということである。特に、No.15 に関してはそれが顕著であり、実際に話された語句が入っている「1」と「2」の誤答率は合わせて 76.0%にもなっている。基本語彙の定着を図ることはもちろんであるが、聞き取った会話を正確に理解し、内容を素早く把握できる能力を身に付けさせる必要がある。

リスニングテスト Part 2 まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	79.5	20.3	0.2	「1」 1.3 % , 「3」 14.3 % , 「4」 4.7 %
	17	70.8	29.0	0.2	「1」 3.3 % , 「3」 6.4 % , 「4」 19.3 %
	18	55.5	44.1	0.4	「2」 14.6 % , 「3」 25.2 % , 「4」 4.3 %
	19	66.0	33.7	0.4	「1」 7.0 % , 「2」 13.7 % , 「3」 13.0 %
	20	46.3	53.0	0.7	「1」 22.3 % , 「3」 18.3 % , 「4」 12.4 %
	21	55.1	44.2	0.7	「1」 21.1 % , 「3」 13.4 % , 「4」 9.7 %
	22	35.8	63.6	0.6	「2」 21.5 % , 「3」 11.5 % , 「4」 30.6 %
	23	43.8	55.9	0.3	「2」 27.4 % , 「3」 18.1 % , 「4」 10.4 %
	24	45.9	53.7	0.4	「1」 16.3 % , 「2」 18.0 % , 「4」 19.4 %
	25	23.1	76.4	0.6	「1」 28.0 % , 「2」 35.1 % , 「3」 13.3 %
	26	50.5	48.9	0.6	「1」 7.9 % , 「2」 17.9 % , 「3」 23.1 %
	27	27.2	72.0	0.8	「1」 20.8 % , 「2」 23.3 % , 「4」 27.9 %
	28	36.5	62.8	0.7	「1」 11.4 % , 「2」 33.7 % , 「3」 17.7 %
	29	26.9	72.4	0.8	「2」 27.9 % , 「3」 28.7 % , 「4」 15.8 %
30	35.0	64.4	0.6	「2」 19.0 % , 「3」 22.9 % , 「4」 22.5 %	

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 46.5%であり、Part 1 よりも 4.2%下回っ

た。正答率が 50%を下回った問題は 9 問であり，特に No.25，No.27，No.29 は 20%台とかなり低いものであった。正答率が高い問題は，答えの根拠となる情報が最後の方で話されているものであり，反対に低い問題は，Part 1 と同じく聞き取る内容が複雑で，実際には発話の中に出てこない語が答えのポイントになる問題である。最も正答率の低かった No.25 に関してもこのことは当てはまり，the movie is really bad が the movie is no good at all と同じであると瞬時に判断できなかつたと思われる。また，正答とまったく反対の意味である選択肢 1 と 2 を選んだ生徒が 63.1%もいたことは残念なことであり，内容を正確に把握する能力が身に付いていないと思われる。普段の授業においても，パートやレッスンごとの要約文を作らせたり，ある程度の量の英文を聞き要約させるといった活動が必要であると思われる。

テスト C について

- ① コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	59.3	40.3	0.4	「1」 11.3%，「2」 21.6%，「4」 7.4%
	2	44.3	55.3	0.4	「1」 17.8%，「2」 21.6%，「3」 15.9%
	3	43.7	55.6	0.6	「2」 23.5%，「3」 19.4%，「4」 12.7%
	4	34.1	65.4	0.6	「1」 21.1%，「3」 19.5%，「4」 24.8%
	5	34.8	64.4	0.8	「2」 19.5%，「3」 25.2%，「4」 19.7%
	6	35.7	63.8	0.6	「1」 19.7%，「2」 22.4%，「3」 21.6%
	7	27.0	72.2	0.8	「1」 36.9%，「2」 16.7%，「4」 18.6%
	8	48.8	50.6	0.6	「1」 14.2%，「3」 17.6%，「4」 18.8%
	9	25.0	74.0	1.0	「2」 18.8%，「3」 28.4%，「4」 26.8%
	10	23.7	75.4	1.0	「1」 22.6%，「3」 18.3%，「4」 34.5%
	11	23.4	75.6	1.0	「1」 28.8%，「3」 21.7%，「4」 25.0%
	12	28.1	70.9	1.0	「1」 20.3%，「3」 29.3%，「4」 21.3%
	13	20.1	78.7	1.2	「2」 30.1%，「3」 22.4%，「4」 26.2%
	14	25.1	73.7	1.1	「1」 19.6%，「3」 34.2%，「4」 20.0%
	15	22.1	76.7	1.2	「1」 21.8%，「2」 25.8%，「4」 29.1%
	16	76.7	22.6	0.7	「1」 8.4%，「3」 8.7%，「4」 5.5%
	17	49.1	50.1	0.8	「1」 14.5%，「2」 10.1%，「3」 25.6%
	18	27.7	71.4	0.9	「1」 19.9%，「2」 19.9%，「3」 31.6%
	19	28.7	70.3	1.0	「1」 17.8%，「2」 30.8%，「3」 21.7%
	20	31.6	67.4	1.0	「1」 19.8%，「2」 23.7%，「3」 23.8%
	21	28.3	70.5	1.3	「1」 22.0%，「2」 24.4%，「4」 24.1%
	22	23.6	75.1	1.3	「1」 29.2%，「2」 17.0%，「3」 28.9%
	23	22.6	76.3	1.1	「1」 20.1%，「2」 21.1%，「4」 35.0%
	24	23.9	74.7	1.4	「1」 29.2%，「3」 26.9%，「4」 18.6%
	25	12.3	86.4	1.3	「2」 35.8%，「3」 12.0%，「4」 38.6%
	26	47.9	50.7	1.3	「1」 13.3%，「3」 18.8%，「4」 18.6%
	27	29.2	69.4	1.4	「1」 36.3%，「2」 18.0%，「4」 15.1%
	28	32.9	65.7	1.4	「1」 19.6%，「2」 17.9%，「4」 28.1%

	29	24.5	73.8	1.7	「1」17.5%, 「2」31.6%, 「4」24.8%
	30	30.7	67.8	1.5	「1」14.4%, 「2」23.6%, 「4」29.9%

【考察】全体の正答率は32.9%であり、正答率が30%を下回ったのは30問中17問であった。その中でもNo.13, 15, 23, 25が特に低かった。No.13, 15は適切な動詞を選ぶ問題だが、正しい意味が理解できていない誤答が目立った。No.23ではstand forのforをonとする誤答が多く、No.25ではcatch up withの意味を理解できていない誤答が目立った。全般的に会話でよく用いられる表現や語句の意味に関しては比較的正答率が高かったが、文法や語法の問題に関しては定着が不十分である。言語使用に関しては文法等の知識も重要であり、様々な機会をとらえて練習させることによって身に付けさせたい。

- ② 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
②	31	48.5	50.2	1.2	「1」24.1% 「2」11.5% 「4」14.7%
	32	37.2	61.2	1.6	「1」28.7% 「2」19.8% 「4」12.8%
	33	27.1	71.2	1.7	「2」24.1% 「3」21.0% 「4」26.1%
	34	26.1	71.6	2.3	「2」26.0% 「3」23.7% 「4」22.0%
	35	34.6	63.2	2.2	「1」21.6% 「3」22.3% 「4」19.3%

【考察】No.31はHow far ~?の疑問表現を問う問題であり、正答率48.5%と半数近く理解できていたようだが、No.32 ~ No.35は正答率が30%前後であり誤答にもバラつきがある。特にNo.34のIt takes 人to ~の構文は定着率が悪いようである。No.33は、無生物主語を用いた文章表現に慣れていないため、様々な誤答があった。

- ③ コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法事項など、言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
③	36	86.3	12.7	1.0	「2」5.3% 「3」4.2% 「4」3.2%
	37	58.3	40.5	1.1	「2」16.7% 「3」8.9% 「4」15.0%
	38	44.8	53.1	2.1	「1」8.8% 「3」19.7% 「4」24.6%
	39	37.5	60.7	1.8	「1」22.3% 「2」12.4% 「4」26.0%
	40	31.0	66.9	2.1	「1」18.3% 「2」28.2% 「3」20.4%

【考察】No.36とNo.37は正答率が50%を超えているが、No.38以降は下回っている。特にNo.40はHow often ~?という頻度を問う問題であるが、2 By busを選ぶ誤答が多かった。また、No.39のWhich would you like?に対して、4 I'm glad you like it.を選ぶ誤答も多い。基本的にはすべて日常的な会話表現であり、疑問に対する典型的な返答の仕方が定着しているかを問われる問題であった。Wh疑問文やhowで始まる疑問文は、答え方に慣れておく必要がある。

4 英語による説明文を読んで、書かれている概要・要点を理解する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	53.4	43.7	2.9	「2」20.7% 「3」16.5% 「4」6.5%
	42	53.4	43.5	3.1	「1」11.7% 「3」15.2% 「4」16.6%
	43	37.0	59.6	3.4	「1」23.0% 「3」15.7% 「4」20.9%
	44	43.1	53.1	3.8	「2」20.3% 「3」18.8% 「4」14.0%
	45	35.7	60.3	4.0	「2」20.2% 「3」28.6% 「4」11.5%
	46	17.8	77.0	5.3	「2」21.2% 「3」40.8% 「4」14.9%
	47	25.8	68.6	5.6	「2」32.3% 「3」18.4% 「4」17.9%
	48	31.7	62.4	5.9	「1」19.2% 「2」21.9% 「3」21.3%
	49	35.8	58.2	6.0	「1」16.8% 「2」20.9% 「4」20.5%
	50	29.4	64.6	6.0	「2」24.7% 「3」20.7% 「4」19.3%

【考察】No.41～No.45は、エレンの誕生パーティがどのように行われたかについて説明されている文章から内容を読み取る問題である。No.41とNo.42は正答率が50%を上回っており比較的よく理解していたようである。しかしNo.43やNo.45は、質問の解答となる部分を文章から見つけ出せているものの、英文を正確にとらえていないため誤答となってしまうケースが多くあるように見受けられた。またNo.44のHow long～?の質問に対して、時間を答えるものでない選択肢を選んだ誤答は約30%であった。

No.46～No.50は、作曲家ブラームスに関する英文の内容を読み取る問題である。一文一文が比較的長いため、内容把握をきちんとできないまま問いに答えている様子が見えられた。特にNo.46は、解答に相当する英文に着目しているようだが、意味を正確に読み取れていないため3 The person who wrote the music.の誤答が40.8%と非常に多かった。No.47は問題文の意味が読み取れていないため、「ブラームスが眠る時なぜ人々は部屋から出て行くのか?」という問いに対して、2 Because he made babies sleepy.を選ぶ誤答が32.3%と多かった。No.48～No.50は30%前後の正答率だったが、誤答のばらつきが多かった。英文の内容を詳細に読み取る力を身に付けさせたいものである。

リスニング・・・Part 1(問題1～15) Part 2(問題16～30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト	1	82.8	16.4	0.7	「1」5.9%、「2」5.1%、「4」5.4%
	2	71.9	27.5	0.6	「2」14.9%、「3」9.3%、「4」3.3%
	3	54.7	44.3	1.0	「1」5.3%、「2」23.2%、「3」15.8%
	4	64.5	34.8	0.7	「2」13.4%、「3」10.5%、「4」10.9%
	5	66.8	32.9	0.4	「1」7.2%、「2」7.0%、「4」18.7%
	6	47.0	52.1	0.8	「1」10.0%、「2」30.7%、「3」11.4%
	7	65.6	33.9	0.5	「1」14.0%、「2」13.6%、「3」6.3%
	8	40.6	58.9	0.5	「1」31.4%、「3」19.8%、「4」7.6%
	9	45.6	53.6	0.9	「1」15.9%、「2」25.3%、「4」12.4%

スト Part 1	10	42.4	56.7	0.9	「2」22.0%, 「3」16.3%, 「4」18.5%
	11	53.5	46.0	0.6	「1」12.2%, 「2」11.2%, 「4」22.6%
	12	31.5	67.9	0.6	「1」21.3%, 「2」38.8%, 「4」7.8%
	13	41.9	57.3	0.8	「2」26.2%, 「3」18.7%, 「4」12.5%
	14	41.1	58.4	0.6	「2」13.5%, 「3」31.5%, 「4」13.4%
	15	15.3	84.2	0.5	「1」21.8%, 「2」21.6%, 「4」40.9%

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 51.0%であった。No.1, 2, 5, 7 では内容を正確に理解できているようである。しかし, No.8, 12, 15 のように聞き取る内容が複雑になると正答率が下がっている。特に No.8 では異なる時制が入り混じった表現になっており, 正しい聞き取りができていない。No.12 や 15 では会話文に出てきた語彙に惑わされた誤答が目立つ。聞き取った文章を正確に理解し, 素早く判断できる能力を身に付けるとともに, 基本語彙の定着を図る必要がある。

リスニングテスト Part 2 まとまった英文と問いかけを聞き, それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって, 英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リス ニ ン グ テ ス ト Part 2	16	65.7	33.8	0.5	「1」10.9%, 「2」15.4%, 「3」7.5%
	17	66.5	33.1	0.4	「1」7.7%, 「2」15.2%, 「4」10.2%
	18	64.7	34.9	0.4	「2」10.6%, 「3」16.9%, 「4」7.3%
	19	44.0	55.5	0.5	「2」15.9%, 「3」24.3%, 「4」15.3%
	20	41.4	57.8	0.7	「1」21.1%, 「2」18.1%, 「4」18.6%
	21	33.3	66.2	0.4	「2」28.0%, 「3」29.2%, 「4」9.0%
	22	52.0	47.5	0.5	「1」9.4%, 「3」27.8%, 「4」10.3%
	23	48.6	50.8	0.6	「1」7.1%, 「3」28.3%, 「4」15.4%
	24	44.6	54.9	0.5	「1」8.7%, 「2」33.0%, 「3」13.2%
	25	26.0	73.3	0.7	「2」23.2%, 「3」35.3%, 「4」14.8%
	26	28.0	71.1	0.8	「2」18.1%, 「3」31.8%, 「4」21.3%
	27	26.9	72.1	1.0	「1」20.9%, 「2」19.4%, 「4」31.8%
	28	27.9	71.3	0.8	「1」21.6%, 「2」22.1%, 「3」27.6%
	29	32.6	66.6	0.8	「1」14.8%, 「2」34.8%, 「4」17.0%
30	26.9	72.3	0.7	「1」25.7%, 「3」16.4%, 「4」30.2%	

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 41.9%であった。No.16 ~ 18 は正答率が高いが, No.25 ~ 28 と No.30 では正答率が低く, 正しく聞き取れていない。特に Why ~ ? という理由を尋ねる設問に対する応答で誤答が目立った。リスニングの練習を積み重ねるとともに, 聞き取った状況を的確に把握する力を身に付けさせる必要がある。

3 指導上の改善

(1) 全体的な傾向

各問題とも, 理解力, 表現力, 思考力を重視しながら, 英語によるコミュニケーションを図るために必要な英語力の定着をみようとした。

前年度と今年度では問題が異なるために比較は難しいが, 全体の正答率で比較を試みしてみる。平成 18 年度の各テストの正答率は, テスト A が 36.7%, テスト B が 40.6%,

テスト C が 39.7%である。テスト A, B, C 全体の平均正答率は 39.0%となる。平成 17 年度の「みやぎ学力状況調査」の英語の平均正答率は 57.8%, 平成 16 年度は 50.5%であった。このことから, 今年度の宮城県版英語検定の問題は, 全体として難易度の高い問題であったと言える。

なお, 得点率を見ると, テスト A が 53.6%, テスト B が 57.9%, テスト C が 49.7%であり, テスト A, B, C 全体の平均得点率は 51.8%である。

各級相当者数は, 準 1 級レベルが 5 名, 2 級レベルが 91 名, 準 2 級レベルが 971 名, 3 級レベルが 4,489 名, 4 級レベルが 3,438 名である。さらに, 4 級レベルに満たない者は 6,282 名である。準 2 級レベル以上が全体の 7.0%, 3 級レベルが全体の 29.4%, 4 級レベルが全体の 22.5%, 4 級に満たないレベルが全体の 41.1%を占める。

全体的にみると, 現高校 1 年生全体の英語力は, 満足できるところまで達していないものと考えて良いだろう。

(2) 理解力

理解力には, 音声による理解力(聞く力)と文字による理解力(読む力)がある。

聞き取りについては, 生徒が理解できる英語を聞かせる機会を多く用意することにより, 聞くことへの抵抗を軽減し, 自信を付けさせるため, 教師が英語で授業を行うことが最も効果的である。また, 聞き取る力を伸張させるためには, 目的を持ったリスニングを多く経験させることも効果的である。

読み取りについては, 平易な説明文の概要を読み取る力はおおむね身に付いていると言える。しかし, 語彙力不足に加え, 小説や物語文を読むことや英問英答の形式に慣れ親しんでいないことから, 登場人物の心の動きを把握し, 適切に回答する力が不足している。

読む力は読むことを通して養われる。概略を把握するためのスキミング (skimming), 必要な情報を選び出すためのスキヤニング (scanning), 英文の内容と言語的表現を深く詳細に分析しながら読むための精読 (intensive reading) など, 異なった方法を活用して指導するとともに, 教室外では多読 (extensive reading) を奨励したい。

(3) 表現力

表現力には, 音声による表現力(話す力)と文字による表現力(書く力)がある。本調査では話す力は把握できないため, 書く力について語句整序問題である[2]の結果から述べる。テスト A, B, C 全体の平均正答率は 27.0% (昨年度は 58.7%) である。英文を構成する力や表現力の基礎はある程度身に付いていると判断できるが, 総じて不十分である。

「書くこと」の指導については, 英語における「書くこと」の時間を確保するとともに, オーラル・コミュニケーションの時間では, 聞くこと及び話すことの指導の効果を高めるために, 「書くこと」とも有機的に関連付けた活動を行うことが求められる。また, これまでの伝統的な「結果重視のライティング指導 (product approach to writing)」とともに, 「過程重視のライティング指導 (process approach to writing)」も取り入れることで, 生徒の文字による表現力をバランスよく伸張させることが必要である。

(4) 語彙指導

「日常的な話題について, 聞いたことや読んだことを理解し, 情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」という学習指導要領の英語の目標を達成するためには, 語彙力は非常に重要である。語彙指導は, 語彙の導入と語彙の練習に分けられるが, 意図的語彙学習 (intentional vocabulary learning) の機会を, 授業に計画的に組み込む必要がある。また, 語彙の学習では, 個々の単語を切り離して学習する

よりも、関連する語をまとめて学習すること等により、効果的に語彙力を向上させたい。また、文脈から意味を推測する（guessing meaning from context）方法や語彙の学習方略（learning strategy）を教えることなどにより、生徒の学習者としての自律性を促すことも必要である。

（５）基礎的・基本的な文法・語法や慣用表現

文法・語法・慣用表現についての問題である①について、テスト A, B, C 全体の平均正答率は 34.1%（昨年度は 47.0%）であり、定着が不十分である。生徒の実態に合わせて、練習問題等の基礎トレーニングを繰り返すとともに、4 領域を有機的に関連付けた総合的なコミュニケーション活動を積み重ねることを通して、基本語彙を含めた基本文法や口語表現の定着と習熟を図ることが必要である。

（６）中学校での指導内容との連結への配慮

中学校では音声によるコミュニケーションを重視した指導が行われていることを踏まえ、高等学校の初期においては、「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動を多く取り入れ、生徒が抵抗なく高等学校での授業を受けられるようにするとともに、次第に「読むこと」及び「書くこと」の言語活動の比重を高めながら、4 領域にわたる実践的コミュニケーション能力を育成することが求められる。

テスト別正答率一覧

分野	問題番号	テストA		テストB		テストC	
		正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率
語彙	No.1	48.6%	33.3%	74.9%	36.0%	59.3%	32.9%
	No.2	51.1%		75.8%		44.3%	
	No.3	53.7%		51.4%		43.7%	
	No.4	35.6%		45.9%		34.1%	
	No.5	36.2%		50.0%		34.8%	
	No.6	37.1%		27.2%		35.7%	
	No.7	43.5%		42.8%		27.0%	
	No.8	29.8%		27.6%		48.8%	
	No.9	21.6%		21.3%		25.0%	
	No.10	24.8%		26.5%		23.7%	
	No.11	23.8%		20.3%		23.4%	
	No.12	20.3%		15.7%		28.1%	
	No.13	20.0%		17.7%		20.1%	
	No.14	15.2%		18.6%		25.1%	
	No.15	23.5%		15.6%		22.1%	
	No.16	87.6%		71.2%		76.7%	
	No.17	38.4%		79.0%		49.1%	
	No.18	36.8%		55.5%		27.7%	
	No.19	29.5%		58.0%		28.7%	
	No.20	24.1%		31.7%		31.6%	
	No.21	14.9%		23.7%		28.3%	
	No.22	34.0%		27.6%		23.6%	
	No.23	21.0%		20.1%		22.6%	
	No.24	20.6%		21.9%		23.9%	
	No.25	23.5%		30.7%		12.3%	
	No.26	74.9%		25.8%		47.9%	
	No.27	37.8%		34.4%		29.2%	
	No.28	21.3%		16.5%		32.9%	
	No.29	29.5%		30.3%		24.5%	
	No.30	21.9%		25.0%		30.7%	
文章	No.31	59.7%	21.3%	12.6%	25.0%	48.5%	34.8%
	No.32	6.0%		31.5%		37.2%	
	No.33	14.6%		58.7%		27.1%	
	No.34	20.6%		15.9%		26.1%	
	No.35	5.7%		5.6%		34.6%	
読解	No.36	35.9%	29.8%	87.4%	38.8%	86.3%	41.5%
	No.37	59.7%		65.7%		58.3%	
	No.38	33.0%		48.4%		44.8%	
	No.39	20.6%		26.0%		37.5%	
	No.40	35.6%		32.9%		31.0%	
	No.41	35.6%		51.4%		53.4%	
	No.42	39.0%		21.5%		53.4%	
	No.43	21.6%		31.5%		37.0%	
	No.44	25.1%		41.5%		43.1%	
	No.45	27.9%		35.2%		35.7%	
	No.46	32.4%		26.3%		17.8%	
	No.47	17.5%		33.3%		25.8%	
	No.48	14.6%		20.4%		31.7%	
	No.49	23.2%		30.4%		35.8%	
	No.50	26.3%		29.8%		29.4%	

英語

テスト別正答率一覧

		テストA		テストB		テストC	
分野	問題番号	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率
リスニング	No.51	94.0%	46.0%	85.1%	48.7%	82.8%	46.6%
	No.52	87.6%		81.7%		71.9%	
	No.53	68.3%		74.9%		54.7%	
	No.54	46.7%		72.2%		64.5%	
	No.55	61.6%		54.1%		66.8%	
	No.56	51.4%		45.6%		47.0%	
	No.57	44.1%		30.7%		65.6%	
	No.58	48.6%		47.3%		40.6%	
	No.59	43.5%		56.5%		45.6%	
	No.60	38.4%		37.2%		42.4%	
	No.61	30.8%		46.9%		53.5%	
	No.62	48.9%		41.4%		31.5%	
	No.63	25.7%		35.3%		41.9%	
	No.64	27.9%		41.2%		41.1%	
	No.65	11.4%		11.1%		15.3%	
	No.66	90.5%		79.5%		65.7%	
	No.67	86.0%		70.8%		66.5%	
	No.68	66.3%		55.5%		64.7%	
	No.69	41.3%		66.0%		44.0%	
	No.70	56.8%		46.3%		41.4%	
No.71	35.2%	55.1%	33.3%				
No.72	49.8%	35.8%	52.0%				
No.73	41.0%	43.8%	48.6%				
No.74	28.6%	45.9%	44.6%				
No.75	11.4%	23.1%	26.0%				
No.76	21.3%	50.5%	28.0%				
No.77	22.9%	27.2%	26.9%				
No.78	12.7%	36.5%	27.9%				
No.79	57.8%	26.9%	32.6%				
No.80	32.7%	35.0%	26.9%				
平均正答率		36.7%		40.6%		39.7%	
A,B,Cの平均正答率		39.0%					

平成18年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17
20.1	35.6	41.9	20.8	23.0	31.0	31.8
10.5	11.6	14.1	7.0	7.1	10.6	10.1
3.3	3.1	2.6	5.3	4.2	3.6	4.0
20.0	16.0	13.3	22.1	22.3	17.8	18.3
23.8	16.1	10.2	21.0	21.0	16.8	15.7
4.6	2.8	2.5	5.0	4.0	3.5	3.7
0.4	0.3	0.1	0.5	0.7	0.3	0.4
14.0	12.7	13.1	15.6	14.8	13.9	13.1
1.7	1.7	1.6	1.9	2.3	1.8	2.1
1.8	0.1	0.6	0.7	0.5	0.6	0.8

4年制国公立大学
4年制私立大学
短期大学
専修学校・各種学校
民間就職
公務員就職
家業
未定
その他
記入ミス・無答

～ までを含めた進学希望者63.0%は昨年度より1.2ポイント減少している。そのうち4年制大学・短大への進学希望者(～)が約7割の45.2%で、昨年度より0.7ポイント減少した。また、～の就職希望者は20.6%と昨年度より0.8ポイント増加した。の未定とのその他を選択した者は合わせて15.7%であり、昨年度より0.5ポイント高くなっている。進学希望者が頭打ちになるなかで就職希望者の微増が今回の特徴である。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17
52.1	49.0	49.7	47.2	45.6	48.6	50.8
10.8	12.8	12.3	11.7	12.8	12.2	15.7
18.5	20.6	20.2	23.0	22.4	21.1	13.7
10.6	11.9	12.1	11.4	12.2	11.8	13.0
6.1	5.4	4.8	5.9	5.7	5.5	6.1
1.9	0.4	0.8	0.8	1.2	0.9	0.7

卒業までに絶対達成しようと思っている。
達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。
卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
何とかなるだろうと思っている。
あまり考えないようにしている。
記入ミス・無答

進路の達成に向けては、卒業までに絶対達成しようと考えている者、卒業後1,2年かかっても達成したいという者が昨年度に比べ、5.7ポイント減少し、進路達成の意識がやや低くなってきている。またの進路に対してのこだわりが弱い層は7.4ポイント増加している。一方のような進路意識の希薄な層が1.8%減少している。進路意識そのものは多少の向上が認められるものの、意識の質的には進路に対する強い意志をもつ者が減少傾向にあると考えられる。

Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17
9.7	11.1	10.9	10.6	9.5	10.5	11.8
12.5	12.8	12.8	12.9	12.6	12.8	12.0
12.9	11.5	13.3	9.9	10.4	11.7	11.5
1.3	0.9	0.9	0.6	0.7	0.8	0.8
32.2	32.8	33.1	33.1	33.4	33.0	33.7
3.7	2.9	2.8	3.9	3.1	3.2	3.3
22.2	22.6	21.7	24.4	24.9	23.0	22.5
3.3	4.0	3.2	3.2	3.6	3.5	3.0
2.1	1.4	1.3	1.4	1.8	1.5	1.5

分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
入学試験や就職試験に備えたい。
親や先生にほめられたい。
成績を上げたい。
先生や家族に言われるから勉強している。
特に考えていない。
その他
記入ミス・無答

昨年同様、の成績向上を意識して勉強している者が33.0%と高く、の知的好奇心・探求心や社会で役立つことを意識している者が合わせて23.3%となっている。一方で、～の学習に消極的な層が全体の約30%近くになることから、学習への意欲を喚起し興味・関心を引き出す授業や教育活動への改善が望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17
6.1	5.8	6.5	5.6	5.3	5.9	6.0
30.2	32.9	36.1	30.1	31.2	32.8	31.2
44.6	43.5	41.3	45.5	45.3	43.6	44.5
13.2	12.8	12.2	13.9	13.3	13.0	13.3
3.3	3.7	2.6	3.3	3.5	3.2	3.3
2.5	1.3	1.4	1.6	1.4	1.5	1.7

ほとんどの授業がよく理解できる。
理解できる授業の方が多い。
理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
理解できない授業の方が多い。
ほとんどの授業が理解できない。
記入ミス・無答

だいたい理解できると回答した者はとを合わせて38.7%で昨年と比べ1.5ポイント増加した。また、あまり理解できないと回答した者はとを合わせて16.2%で昨年度と比べ0.4ポイント減少した。の理解できる授業と理解できない授業が半々という層も減少しており、全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増えている。分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、同時に授業改善に向けての県の施策のさらなる充実が求められている。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
47.4	53.5	55.8	47.0	54.2	52.0	52.3	自分で調べる。
32.7	31.4	31.4	32.0	33.4	32.7	32.3	学校の先生に質問する。
70.7	69.3	68.1	74.7	71.7	70.3	68.6	友達に聞く。
17.1	16.5	17.1	15.3	14.7	16.1	15.9	家族に聞く。
10.3	13.9	13.8	8.3	10.7	11.9	11.8	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
22.1	22.6	21.3	22.6	22.2	22.2	23.2	そのまましておく。
2.7	3.6	2.7	3.6	2.9	3.3	3.4	その他

～ は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、都市部の生徒より周辺部の生徒にその傾向が強い。2番目の「自分で調べる」は逆に周辺部の生徒より都市部の生徒の方が高い傾向を示している。学校内での解決を図る中では「学校の先生に質問する」が一番低い。また「そのまましておく」と回答した者も依然多ことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	得意教科
21.2	18.9	19.4	18.3	20.1	19.4	19.5	国語
12.3	10.9	9.2	10.0	10.4	10.3	9.0	地理歴史
3.3	3.8	4.4	4.9	3.7	4.1	3.6	公民
17.2	21.0	21.8	20.2	20.1	20.6	20.9	数学
10.4	11.8	11.3	13.4	10.9	11.7	11.8	理科
12.6	13.3	17.3	13.0	13.5	14.4	15.9	英語
9.4	7.8	5.5	7.7	8.9	7.4	7.7	専門教科
11.6	9.7	9.4	10.5	10.3	10.0	10.6	その他
2.0	2.7	1.7	2.2	2.1	2.1	1.1	記入ミス・無答

数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、昨年までと同様である。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	不得意教科
6.9	10.0	12.0	9.1	9.2	10.0	10.6	国語
9.4	10.3	11.5	8.9	9.7	10.2	12.7	地理歴史
1.4	2.3	3.0	2.0	3.0	2.5	2.7	公民
31.2	29.2	30.9	31.2	27.9	30.1	29.4	数学
12.0	8.9	9.5	8.3	11.8	9.8	10.5	理科
31.2	30.8	26.5	33.1	29.3	29.7	27.4	英語
4.5	3.0	2.6	3.2	4.2	3.3	3.0	専門教科
1.2	2.6	2.0	1.7	2.3	2.0	2.3	その他
2.2	2.8	2.0	2.5	2.5	2.4	1.4	記入ミス・無答

数学、英語、地理歴史、国語、理科の順番であり、昨年と同様であるが、英語を不得意とする回答が昨年度より2.3ポイント増加し、地理歴史を不得意とする回答は昨年度より2.5ポイント減少している。数学は昨年同様得意が不得意を上回っているが、理科については得意が不得意を上回っている。数学又は英語を不得意と感じている約6割の生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
10.0	17.6	21.9	14.6	9.1	16.1	17.5	ほとんど毎日出ている。
38.1	36.9	35.6	33.2	28.4	34.4	32.8	週に2～3回出ている。
28.7	24.8	29.3	37.8	39.7	31.6	30.9	週に1回くらい出ている。
21.5	18.6	12.2	12.8	21.7	16.3	17.8	ほとんど出していない。
1.8	2.1	1.1	1.6	1.1	1.5	1.0	記入ミス・無答

～ を合わせて、週あたり何らかの宿題・課題が出される割合が82.3%となっており、昨年度より0.9ポイント増加した。ほとんど宿題が出されない割合も減少しており、なんらかの形で宿題を出す割合が増加しているが、家庭学習を促進するような「分かる授業」等の充実がさらに期待される。

Q8 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
35.6	34.8	34.2	38.1	36.5	35.6	35.1	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.4	6.5	7.9	5.8	5.4	6.5	6.1	発展的な内容まで教えてくれる授業
36.6	38.9	39.8	37.3	38.1	38.5	39.8	興味や関心がもてるような授業
13.7	12.7	13.5	11.6	12.1	12.7	12.5	進路希望達成につながる授業
7.5	5.4	3.8	5.8	7.0	5.5	5.9	資格取得につながる授業
1.2	1.7	1.0	1.4	1.0	1.2	0.6	記入ミス・無答

昨年度同様興味・関心がもてる授業を期待する声が最も高く、ついで基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望んでいる。生徒の期待に応えるこれらの授業や体制を実現する授業改善や体制づくりに、さらに各校の取組が望まれる。

Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
35.6	33.2	30.3	36.0	37.7	33.9	36.7	全く、またはほとんどしない。
12.3	13.4	12.2	12.3	13.3	12.7	12.6	30分より少ない。
15.3	16.6	18.5	16.7	16.3	17.0	15.7	30分～
22.3	21.7	24.2	23.4	20.2	22.6	21.0	1時間～
11.3	10.0	11.0	8.1	8.6	9.8	10.4	2時間～
1.4	2.7	2.1	1.7	2.6	2.1	2.5	3時間～
0.4	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	4時間～
0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	5時間以上
1.1	1.6	1.2	1.3	0.6	1.2	0.4	記入ミス・無答

昨年度より2.8ポイント減少しているものの平日に家庭学習をしない者が33.9%にのぼり、全体の回答の第1位を占めている。また、～の家庭学習にしっかり取り組んでいる層も1.2ポイント減少しており、総じて30分～1時間前後に回答が集まる傾向がある。～の合計は昨年度とほぼ同じであり、全体の86.2%が2時間未満の家庭学習時間となっている。家庭学習時間1時間以上の者は35.1%であるが、この学年の中学2年生での調査(平成16年度宮城県学習状況調査)において、1時間以上の者が56.0%であったことを考えるなら、家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。

Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
35.5	32.9	25.5	35.7	35.0	31.8	34.8	全く、またはほとんどしない。
10.5	10.3	9.4	11.1	11.7	10.4	10.5	30分より少ない。
11.8	10.9	11.2	12.2	11.9	11.5	10.7	30分～
17.1	17.1	20.2	17.9	17.9	18.3	17.0	1時間～
15.2	13.4	17.0	13.9	12.5	14.6	14.0	2時間～
5.4	7.2	8.7	5.1	6.1	6.9	7.4	3時間～
2.4	3.8	3.7	1.6	2.7	3.0	2.9	4時間～
0.5	1.5	1.7	0.9	0.8	1.2	1.4	5時間～
0.2	0.7	0.7	0.3	0.7	0.6	0.6	6時間～
0.1	0.7	0.4	0.0	0.2	0.3	0.4	7時間以上
1.3	1.6	1.5	1.2	0.5	1.3	0.8	記入ミス・無答

休日に家庭学習をしない者が昨年度より3.0ポイント減少し、平日より低い割合となっている。これに30分以内を加えると42.2%となり、これは昨年度に比べ3.1ポイント減少している。さらに～の回答から、休日には家庭学習時間を増やしている者の割合が若干増加傾向にある。

Q11 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
11.8	12.7	16.3	10.4	11.0	13.0	12.8	ほぼ毎日している。
6.1	4.7	3.7	4.7	4.3	4.5	4.3	主に平日にしている。
5.2	5.1	7.2	4.9	6.5	6.0	6.6	主に休日にしている。
31.7	37.3	36.9	37.1	34.5	36.1	34.8	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
5.2	4.6	4.8	6.1	4.9	5.1	4.4	主に宿題・課題のあるときにしている。
8.1	7.1	7.5	7.6	8.0	7.6	8.1	主に定期考査前にしている。
1.8	2.1	1.6	1.3	1.4	1.6	1.8	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.5	13.4	11.2	14.6	14.6	13.3	13.7	気が向いたときにしている。
13.7	10.2	9.1	11.4	12.4	10.8	12.0	家庭学習はほとんどしない。
1.0	1.2	1.0	0.8	1.6	1.1	1.0	その他
0.9	1.7	0.9	1.3	0.6	1.1	1.4	記入ミス・無答

の宿題・課題と定期考査前のみ家庭学習をする割合は4割を超え、のほぼ毎日している割合の3倍を超えている。家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は17.5%であるが、依然約8割の生徒に家庭学習の習慣化がされていない。学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりのなかから、家庭学習の推進が望まれる。

Q12 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
5.1	5.6	4.7	5.7	6.3	5.4	4.8	国語
6.0	4.9	6.6	5.4	5.1	5.7	4.7	地理歴史
1.6	0.7	1.5	1.9	1.8	1.5	1.5	公民
31.7	40.7	41.4	34.8	29.8	37.0	36.5	数学
6.7	4.5	4.6	5.0	5.5	5.0	5.3	理科
21.9	22.8	23.9	24.1	25.0	23.7	25.5	英語
13.2	8.7	7.6	9.3	12.8	9.6	10.3	専門教科
11.4	9.3	7.5	11.5	10.9	9.6	9.6	その他
2.3	2.8	2.3	2.4	2.8	2.5	1.8	記入ミス・無答

昨年同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。一方で、Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか、最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
16.9	12.8	12.8	15.3	15.7	14.2	15.3	家庭学習の方法が分からない。
22.8	26.1	27.0	25.1	22.8	25.3	26.0	家庭学習に集中できない。
14.5	13.3	13.9	14.5	15.5	14.2	13.9	学習の計画を立てても長続きしない。
21.6	21.6	22.6	20.2	18.7	21.1	20.9	家庭学習と部活動の両立が難しい。
5.4	5.6	5.5	5.6	6.0	5.6	5.2	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.4	4.1	3.9	3.0	3.4	3.6	3.5	その他
13.7	14.3	12.7	14.6	16.2	14.1	14.2	特に悩みはない。
1.7	2.2	1.7	1.7	1.8	1.8	1.0	記入ミス・無答

8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者の割合が高い。昨年度も同様の結果であったが、集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう家庭との連携を進めていく必要がある。また、「家庭学習の方法が分からない」者が14.2%となっている。これは、「学習の計画を立てても長続きしない」、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」にも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。

Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
4.1	5.7	7.1	4.2	4.3	5.5	5.6	家庭学習
24.4	23.1	21.8	24.9	24.4	23.4	28.8	テレビやビデオ
5.4	4.9	3.7	4.5	3.7	4.3	4.5	ゲーム
22.9	18.3	17.1	24.3	22.6	20.3	16.9	電話やメール
3.9	3.0	4.3	3.8	4.1	3.8	3.8	読書
22.2	24.1	23.7	21.4	23.4	23.2	22.3	自分の趣味
2.7	4.4	4.1	3.2	3.2	3.7	3.5	家族との会話
1.7	1.2	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	手伝い
10.1	12.4	13.7	9.8	10.9	11.8	11.4	その他
2.5	3.0	3.0	2.6	2.2	2.7	1.9	記入ミス・無答

「テレビやビデオ」、「自分の趣味」、「電話やメール」の時間が多く。Q13の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。この3項目を合わせると66.9%で、そのうち「電話やメール」の割合が昨年度より3.2%上昇している。時間をかけて行うことが「テレビやビデオ」から「電話やメール」に移行してきていると思われる。また、「ゲーム」については、平成16年度の調査以降、年々減少している。家庭での携帯電話の使用については家庭に考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。

Q15 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
4.4	6.0	7.7	5.8	5.9	6.3	5.0	全く、またはほとんど見ない。
4.5	6.2	6.1	4.9	4.4	5.4	4.6	30分より少ない。
8.2	9.4	11.8	7.9	7.9	9.4	8.1	30分～
22.0	26.1	27.4	21.9	20.7	24.4	21.5	1時間～
25.5	22.9	24.8	24.3	24.1	24.2	24.9	2時間～
17.0	14.8	11.9	17.9	18.4	15.4	18.8	3時間～
9.7	7.3	5.2	8.9	9.0	7.5	9.3	4時間～
7.3	5.3	3.4	7.0	8.1	5.7	6.9	5時間以上
1.4	2.1	1.6	1.4	1.5	1.7	0.9	記入ミス・無答

3時間以上見ている者は28.6%であり、中でも約7人に1人は4時間以上見ていることになる。このことからテレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

Q16 平日に、だいたいどのくらいゲームをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
61.1	60.0	64.9	62.1	62.1	62.4	64.2	全く、またはほとんどしない。
9.1	9.2	8.5	7.5	8.7	8.5	7.6	30分より少ない。
7.9	8.5	9.5	7.8	7.2	8.4	7.7	30分～
9.7	11.4	9.7	11.1	10.4	10.5	10.5	1時間～
5.7	5.1	4.0	5.6	5.9	5.1	5.2	2時間～
2.6	2.5	1.2	2.1	2.6	2.1	2.2	3時間～
0.7	0.5	0.5	0.7	0.9	0.6	0.9	4時間～
1.2	1.1	0.6	1.1	0.9	0.9	0.9	5時間以上
2.0	1.7	1.1	1.8	1.3	1.5	0.8	記入ミス・無答

「テレビやビデオ」に比して、平日にゲームを行っている者は少なく、「全く、またはほとんどしない」、「30分より少ない」を合わせると約7割である。ゲームを行っている者をみると、1～2時間が10.5%と最も高い。

Q17 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
12.9	11.3	13.3	11.2	10.3	11.9	11.7	全く、またはほとんどしない。
15.3	20.6	21.5	16.7	18.1	19.2	20.5	30分より少ない。
13.3	16.1	16.5	14.0	14.2	15.2	15.2	30分～
17.0	17.3	17.8	16.3	15.3	16.9	17.2	1時間～
13.1	12.5	10.8	13.5	13.4	12.4	12.6	2時間～
11.2	8.4	8.2	11.1	10.2	9.5	9.6	3時間～
6.3	4.0	3.6	6.0	5.0	4.6	4.6	4時間～
8.7	7.7	6.3	9.2	11.7	8.3	7.5	5時間以上
2.2	2.0	2.0	2.1	1.9	2.0	1.1	記入ミス・無答

1時間以上電話やメールを行っている者は、昨年度とほぼ同じ51.7%を占めている。また、3時間以上の者は、昨年度を上回り、22.4%にもなっており、「家庭学習に集中できない」大きな要因になっていると思われる。また、Q9での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」33.9%の生徒の生活状況が推測できる。

Q18 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
54.1	57.0	54.8	49.4	54.9	54.2	56.3	全く、またはほとんどしない。
18.3	17.1	17.4	21.7	16.9	18.2	18.4	30分より少ない。
11.4	10.8	11.7	12.5	11.3	11.6	11.2	30分～
8.6	7.9	8.9	8.6	8.3	8.5	7.6	1時間～
2.9	2.9	3.4	3.5	3.9	3.3	3.2	2時間～
1.2	1.2	1.2	1.5	1.8	1.4	1.6	3時間～
0.7	0.5	0.3	0.6	0.6	0.5	0.5	4時間～
0.9	0.7	0.5	0.4	0.9	0.7	0.5	5時間以上
1.9	2.0	1.7	1.9	1.4	1.7	0.7	記入ミス・無答

半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状況であり、平日の読書はあまり習慣化されていない。1時間以上読書する者は14.4%である。朝読書を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

Q19 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
1.4	4.2	5.0	2.7	2.5	3.6	4.1	家庭学習
18.9	17.7	16.9	20.2	19.3	18.3	21.5	テレビやビデオ
7.9	7.0	5.9	6.7	5.7	6.5	7.3	ゲーム
13.3	9.6	8.8	15.1	14.4	11.6	9.5	電話やメール
3.1	2.0	2.4	2.2	2.9	2.4	2.5	読書
28.9	32.7	33.6	28.2	30.0	31.2	30.4	自分の趣味
2.4	2.9	2.5	2.7	2.3	2.6	2.3	家族との対話
2.2	1.5	1.5	1.8	2.6	1.8	1.6	手伝い
17.2	18.3	18.5	16.0	16.7	17.5	17.0	その他
4.8	4.2	4.8	4.4	3.8	4.4	3.7	記入ミス・無答

「自分の趣味」の割合が非常に高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。「電話やメール」の割合は平日と比べると低くなっている。

Q20 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
3.9	4.2	5.4	3.8	4.0	4.4	3.7	全く、またはほとんど見ない。
1.9	2.5	3.0	2.4	2.1	2.5	2.3	30分より少ない。
3.7	4.4	4.5	3.1	3.2	3.9	3.4	30分～
9.3	13.0	14.2	10.2	10.0	11.9	10.2	1時間～
17.0	19.6	22.6	16.4	17.2	19.2	17.5	2時間～
19.7	17.9	19.3	19.0	19.6	19.0	19.5	3時間～
12.9	13.5	12.0	14.7	13.4	13.2	14.9	4時間～
11.9	10.4	9.2	12.9	12.9	11.1	12.4	5時間～
7.0	4.7	3.2	7.0	5.8	5.1	6.1	6時間～
10.0	7.7	4.8	7.6	10.4	7.5	8.9	7時間以上
2.6	2.1	1.6	3.0	1.5	2.1	1.0	記入ミス・無答

3時間以上見ている者は55.9%と半数を超えている。また、約8人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ており、「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q21 休日に、だいたいどのくらいゲームをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
53.8	50.8	56.3	54.1	54.3	54.0	56.3	全く、またはほとんどしない。
7.1	7.1	6.6	6.5	7.2	6.8	5.8	30分より少ない。
5.5	6.2	6.8	5.2	4.8	5.9	5.2	30分～
9.5	12.4	11.2	10.8	10.6	11.1	10.3	1時間～
9.0	9.4	8.6	9.3	9.4	9.1	9.0	2時間～
5.5	5.4	4.3	5.3	5.6	5.1	5.8	3時間～
2.4	2.5	1.6	2.5	2.6	2.2	2.4	4時間～
2.0	1.7	1.1	1.6	1.6	1.5	1.6	5時間～
0.8	0.9	0.4	0.9	0.7	0.7	0.7	6時間～
2.0	1.5	1.0	1.5	1.4	1.4	1.5	7時間以上
2.5	1.9	2.0	2.3	1.9	2.1	1.4	記入ミス・無答

平日と比較してゲームを行う時間が若干長くなっているが、半数以上は、休日でもゲームをほとんどしない。また、ゲームを行っている者については、平日と同様に1時間以上2時間未満の者が11.1%と最も高い。

Q22 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
12.1	10.6	12.1	9.7	9.7	10.9	10.8	全く、またはほとんどしない。
12.4	16.6	16.9	13.2	13.8	15.1	16.9	30分より少ない。
10.6	13.9	14.3	10.8	11.7	12.7	13.0	30分～
13.5	15.7	16.5	14.7	14.4	15.3	15.9	1時間～
12.9	12.5	11.6	11.8	12.5	12.1	12.1	2時間～
9.5	9.0	9.9	11.4	9.4	9.9	9.8	3時間～
7.5	5.9	5.2	7.3	6.6	6.2	6.2	4時間～
6.9	5.3	3.8	6.7	6.2	5.4	5.2	5時間～
3.8	2.0	2.2	3.1	3.5	2.7	2.1	6時間～
7.8	5.9	5.0	7.8	10.5	7.0	6.2	7時間以上
2.9	2.5	2.5	3.5	1.7	2.6	1.7	記入ミス・無答

約10人に1人が、1日6時間以上もの長い時間を電話やメールで過ごしている。また3時間以上の者をみても、年ごとにその割合が高くなってきている。現在の携帯電話の普及やサービス競争を考えると、この傾向が一層強まることが危惧される。早急に対策を講じる必要があると思われる。

Q23 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H17	
56.4	56.2	53.3	55.5	55.8	55.1	58.3	全く、またはほとんどしない。
13.5	13.8	14.0	13.6	12.1	13.5	12.7	30分より少ない。
9.9	9.3	10.3	9.2	9.8	9.7	9.1	30分～
8.8	9.3	10.3	10.0	8.8	9.6	9.1	1時間～
4.6	4.3	5.6	4.8	5.5	5.0	4.8	2時間～
2.0	2.1	2.4	2.7	2.6	2.4	2.3	3時間～
1.6	1.0	0.9	1.2	1.2	1.1	1.1	4時間～
0.5	0.9	0.5	0.7	0.6	0.7	0.7	5時間～
0.3	0.3	0.3	0.5	0.5	0.4	0.3	6時間～
0.8	0.6	0.5	0.4	1.0	0.6	0.6	7時間以上
1.4	2.2	1.8	1.7	2.1	1.9	1.1	記入ミス・無答

30分以内の者が約7割となっており、平日と同様に高い割合になっている。1時間以上の者は19.7%と平日より5.4ポイント増えているものの、読書の習慣が身に付いているとはいえない。

まとめ

今年度の特徴として、Q2の進路希望の達成についての考えが、「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもかまわない」と思っている者が21.1%おり、昨年度と比較すると、7.4ポイントも高くなっている。このことから、生徒たちの中には進路意識はあるものの、自分なりの確固たる意識や目標を見失う傾向が出てきていると考えられる。またこのような進路意識が、普段の学習に対する考えや姿勢に表れているようである。それはQ3の「どんな気持ちで勉強しているか」という問いに対して、「特に考えていない」者の割合が23.0%であることや、Q9やQ10の「家庭学習を全く、またはほとんどしない」者の割合が30%を超えていることから窺える。自分にとっての学習の有用感をもたせるとともに、進路指導においては単にその意識を持たせるだけではなく、自分の将来について具体的に考えさせるなどのさらに踏み込んだ指導が必要と思われる。

授業に対しては、「理解できない授業が半分以上」という者の割合が約6割となっている。そして「授業で分からないことがあってもそのままにしておく」者が22.2%もいる。生徒は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」「興味や関心をもてるような授業」を期待していることから、基礎・基本でつまずいたまま、学習に対する意欲を失ってしまう者も少なからずいると思われる。確固たる進路意識や学習に対する前向きな姿勢を育成するためにも、学校においては、生徒の期待に応える魅力ある授業実践を目指して工夫・改善することに努める必要がある。

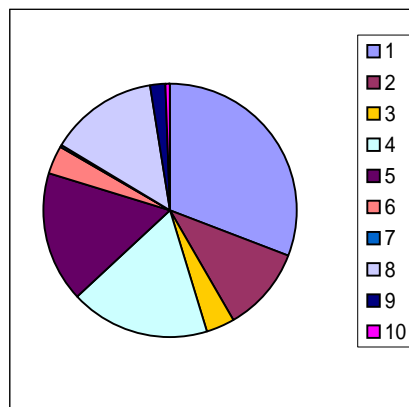
家庭学習の状況を見ると、学習時間については年々増加してはいるが、残念ながら多くの生徒がまだまだ不十分と思われる。家庭学習に集中できない要因として、テレビやビデオ、電話やメールなどあげられる。特に、家庭での携帯電話の使用については家庭に考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。

以上のことから、高い進路意識とそれに基づく学習に対する姿勢を育成することが、なお一層求められる。家庭学習も含めて、学習環境の整備をさらに推進し、生徒の学力の向上に結びつけたい。それには学校と家庭の連携を一層深めた教育の実践が不可欠であり、学校においては、分かる授業、興味関心を持てる授業、学習意識の向上につながる授業等、生徒へのきめ細やかな対応と指導が求められている。

(参考)「まとめ」に関する調査結果(抽出して再掲)

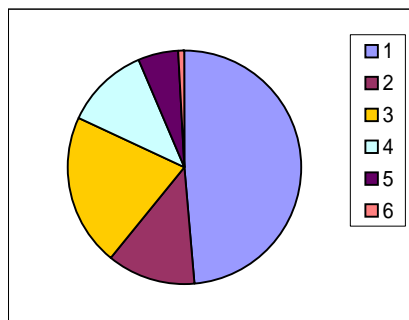
Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

- 4年制国公立大学
- 4年制私立大学
- 短期大学
- 専修学校・各種学校
- 民間就職
- 公務員就職
- 家業
- 未定
- その他
- 記入ミス・無答



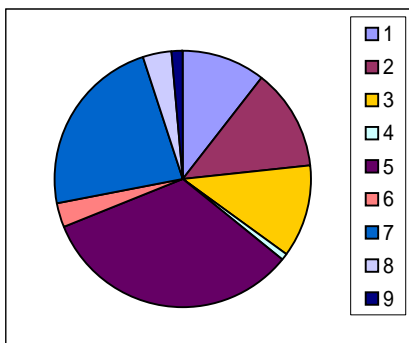
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

- 卒業までに絶対達成しようと思っている。
- 達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
- 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
- 何とかなるだろうと思っている。
- あまり考えないようにしている。
- 記入ミス・無答



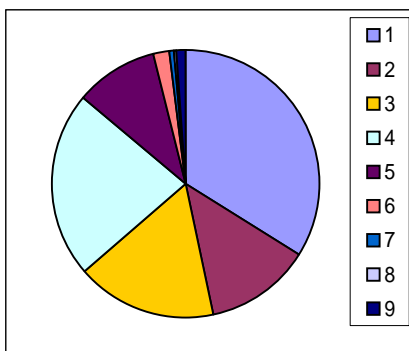
Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

- 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
- 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
- 入学試験や就職試験に備えたい。
- 親や先生にほめられたい。
- 成績を上げたい。
- 先生や家族に言われるから勉強している。
- 特に考えていない。
- その他
- 記入ミス・無答



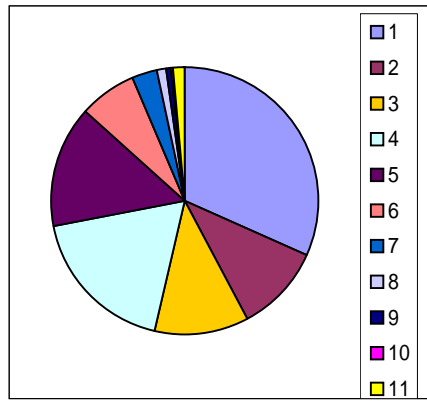
Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度していますか。

- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間以上
- 記入ミス・無答



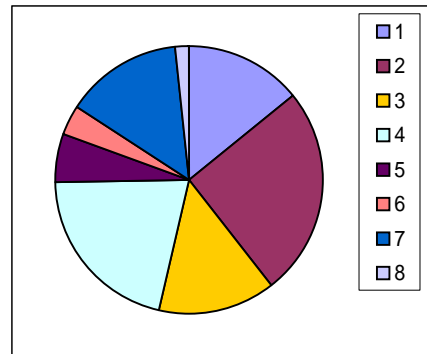
Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間～
- 6時間～
- 7時間以上
- 記入ミス・無答



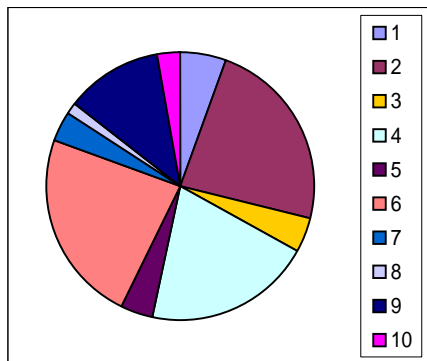
Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

- 家庭学習の方法が分からない。
- 家庭学習に集中できない。
- 学習の計画を立てても長続きしない。
- 家庭学習と部活動の両立が難しい。
- 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
- その他
- 特に悩みはない。
- 記入ミス・無答



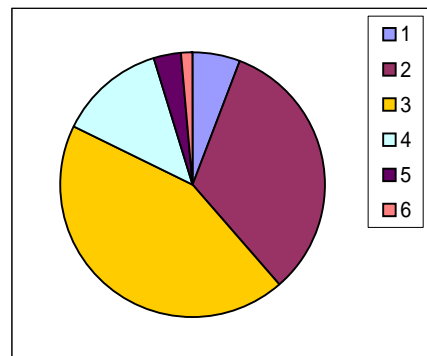
Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

- 家庭学習
- テレビやビデオ
- ゲーム
- 電話やメール
- 読書
- 自分の趣味
- 家族との対話
- 手伝い
- その他
- 記入ミス・無答



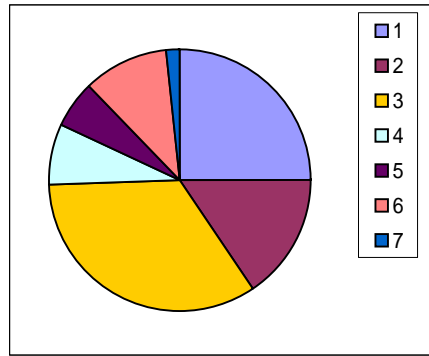
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

- ほとんどの授業がよく理解できる。
- 理解できる授業の方が多い。
- 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
- 理解できない授業の方が多い。
- ほとんどの授業が理解できない。
- 記入ミス・無答



Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

- 自分で調べる。
- 学校の先生に質問する。
- 友達に聞く。
- 家族に聞く。
- 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
- そのままにしておく。
- その他



Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

- 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
- 発展的な内容まで教えてくれる授業
- 興味や関心をもてるような授業
- 進路希望達成につながる授業
- 資格取得につながる授業
- 記入ミス・無答

